

# 沼津高専だより

第101号  
平成24年7月3日発行  
独立行政法人国立高等専門学校機構  
沼津工業高等専門学校  
〒410-8501 沼津市大岡3600  
TEL <055> 921-2700



**2012年は沼津高専の創立50周年です。**

題字：柳下福藏 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

## 目次

☆沼津工業高等専門学校 <span style="font-size: small;">の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針</span>	
☆ <b>新年度にあたって（年度方針等）</b>	
「新教育課程—混合学級と学際教育の導入—」の目指すところ …… 学校長	柳下 福藏 …… 4
新年度にあたって …… 副校長（教務主事）	蓮 實文彦 …… 4
よろしくお願ひします …… 校長補佐（学生主事）	大久保清美 …… 5
新年度にあたって …… 校長補佐（寮務主事）	遠 藤良樹 …… 6
新年度にあたって …… 校長補佐（専攻科長）	遠 山和之 …… 6
（続々）沼津高専の新たな教育が平成24年度4月よりスタートしました —混合学級と学際教育の導入— …… 校長補佐（学際教育担当）	押 川達夫 …… 7
機械工学科の今後 …… 機械工学科長	小 林隆志 …… 8
新年度にあたって …… 電気電子工学科長	佐 藤憲史 …… 8
平成24年度にあたって …… 電子制御工学科長	川 上 誠 …… 9
平成24年度を迎えて …… 制御情報工学科長	長 谷賢治 …… 10
工業化学科設置から46年を経て …… 物質工学科長	芳 野恭士 …… 11
平成24年度の教養科 …… 教養科長	西 垣誠一 …… 12
☆ <b>人事異動について</b>	
平成24年度人事異動 ……	13
平成24年度校務分掌 ……	14
平成24年度学級担任 ……	14
平成24年度学生会・クラブ・同好会顧問教員 ……	15
☆ <b>着任挨拶</b>	
出会ってしまった …… 電気電子工学科	山之内 亘 …… 16
技術者からの転身 …… 制御情報工学科	山 崎 悟史 …… 16
富士山を望みながら …… 物質工学科	山田祐一郎 …… 17
子供のころ夢見た北九州高専 …… 教養科	中 園 孝 信 …… 18
高専で哲学を担当するにあたり …… 教養科	小 柳 敦 史 …… 18
自己紹介と高専の感想 …… 学生課長	入 吉 修 …… 19
☆ <b>新入生から（入学にあたり）</b>	
高専生の特権を大切に …… 1-1	木下 真 優 …… 19
一番初めに学ぶもの …… 1-2	斉 藤 日 向 …… 20
沼津高専に入学して …… 1-3	宮 崎 翔 大 …… 20
☆ <b>卒業生から</b>	
近況報告 …… 機械工学科39期	朝比奈 宙 …… 21
「なぜなぜ」 …… 制御情報工学科9期	秋 山 公 太 …… 21
『鳥の目、虫の目、魚の目！』 …… 物質工学科32期	小川健二郎 …… 22
☆ <b>留学生から</b>	
日本での私の新しい生活 …… 機械工学科3年	ムグンタン・マライ・ラジャン …… 23
やっと日本にいます …… 電気電子工学科3年	ムハマド・シャフィック・ビン・ザカリヤ …… 23
高専での留学生活スタート …… 制御情報工学科3年	エンフバートル・エンフジル …… 24
☆ <b>寮生会活動について</b>	
沼津高専学生寮と成長の軌跡 …… 電気電子工学科5年 寮長	川 口 直 輝 …… 25
☆ <b>東北ボランティアツアー</b>	
…… 学生会副会長兼広報局長 物質工学科3年	遠藤みのり …… 26
☆ <b>私の高専時代</b>	
私の高専時代 …… 制御情報工学科	長 谷 賢 治 …… 27
☆ <b>教育後援会から</b>	
会長就任のご挨拶 …… 教育後援会会長（電気電子工学科5年）	西 岡 珠 美 …… 28
桃李成蹊 …… 新入生保護者（1-1）	松 村 里 恵 …… 28
不器用に、強くなれ …… 新入生保護者（1-2）	茶 田 敏 明 …… 29
自立への第一歩 …… 新入生保護者（1-3）	荻 野 京 子 …… 29
☆ <b>事務部から</b>	
平成24年度沼津高専1日体験入学のお知らせ ……	30
平成24年度（8月～3月）行事予定表 ……	31

## 沼津工業高等専門学校<sup>の</sup>目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

### 教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

### 目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

### 教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

### 学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

### 養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

### 学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

## 新年度にあたって (年度方針等)



### 「新教育課程—混合学級 と学際教育の導入— の目指すところ

学校長  
柳下 福藏

創立50周年を迎える平成24年度が始まりました。

高専機構の第2期（平成21～25年度）中期目標の柱は『高等専門学校教育の充実について（中央教育審議会、平成20年12月答申）』に提示された下記4項目の実現に向けて各高専が高度化を進めることであります。

- それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取り組む、社会経済環境の変化に積極的に対応
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ
- 多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

本校は沼津高専の高度化に向けて1年間の慎重審議を経て「教育課程改定—混合学級と学際教育の導入—」を策定し、本年度の新入生から適用を開始しました。

新教育課程は、社会経済環境が環境・エネルギー、医療・福祉分野を重視する方向に急変していることに対応するために、既存の専門教育を重視しつつ「学際（いくつかの異なる学問分野がかかわること）教育」を行うも

のであります。具体的には、1年生は学科の枠をこえた混合学級編成として全学生が専門5学科の実験・実習を全て体験し、2年生からは専門学科の学級編成になりますが、教養科教員も含む全教員が2年生全員を2～3名ずつ受け持って各々の研究課題を指導するミニ研究を行い、3～5年生は所属学科の専門基盤科目と学際分野（環境・エネルギー分野、医療・福祉分野、新機能材料分野）の学際科目を選択して受講することになります。

先日、混合学級の1年生が工学基礎実験に真剣に取り組む様子、また2年生がミニ研究の指導教員と打合せしている姿を拝見し、本校教職員の教育に掛ける熱意に敬服したところです。ミニ研究の成果発表会は9月末に公開で行いますので、保護者の皆様のご来校をお待ちしております。

沼津高専が平成21年度から実施している「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（文部科学省事業・地域再生人材創出拠点の形成）」は文部科学省の支援が終了する平成26年度以降は学生の希望と地域産業界の要望に応えるために、専攻科に「医療福祉機器開発工学コース」を新設する方向で検討を進めています。

ともあれ、沼津高専は地域との連携を一層親密にしつつ、産業構造の変化に積極的に対応するための不断の改革を進めてまいります。そして、創立50周年を機にポスト50年を見据えた持続可能な技術者教育を推進し、県東部に唯一の工科系国立高等教育機関の使命を着実に果たしていく所存であります。

保護者の皆様のご理解と、変わらぬご支援・ご協力をお願いして新年度のごあいさつといたします。



### 新年度にあたって

副校長（教務主事）  
蓮 實 文 彦

本年度、副校長（教務主事）を担当させて頂くこととなりました物質工学科の蓮實文彦です。私の他、4名の主事補、3名の教務委員、それに学生課教務係、入試係の職員を中心とした連携で教務・入試関連の業務に臨んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。

本年度、沼津高専は創立50周年を迎えます。同時に、柳下校長、押川校長補佐を中心に2年間に渡って検討されてきた大幅な教育改革（1年生の混合学級、2年生のミニ研究、3年生以上の学際教育）のうち前2事項の実施元年ともなります。これまで沼津高専は、社会の要請に応え、時機を得的確に教育内容を改革し対応して来

たものと考えております。しかしながら、近年の技術革新と社会の変化は過去に類例を見ない速さで伸展しております。当然、求められる技術者像も変化しております。本校が行う今回の教育改革は、極めて重要であり、本校を卒業する学生が、我が国の21世紀の技術を担う力と能力とを備えて出発できるよう押川校長補佐と綿密な連携のもと、教育改革の円滑な実施に向け全力で臨んでまいります。

さて、これまでも前任の大島副校長が取り組んできた留年・退学者対策を今年も進めてまいります。平成23年度末、57名が何らかの理由から卒業や進級に至りませんでした。その数は10年前の2倍に及んでいます。教師側の授業改善努力は顕著に表れており、学生による授業評価で授業の改善傾向は明らかです。また、授業についていけない学生への支援も毎年改善され、教師だけで行っていたサポートから専攻科生も加わった体制になるなど支援陣容、期間など様々な支援策の改善が行われております。しかし、これらの支援体制があっても、肝心の学

生が支援を受けに来ないことが最も大きな問題となっております。

留年・退学の原因は、様々であり複雑であることが多く、多様な支援が必要となっていると感じております。担任の教員を中心に学生生活支援室によるメンタルヘルスのサポートも加え学校全体でこの問題に取り組んで参ります。

ただ、教師側の支援には限界があります。学生自身が今の自分を知り、沼津高専という得難い学びの場に居られることをどのように生かそうとするのか？このこと抜きには、留年・退学者対策は成立しません。本年度は、キャリア教育コーディネーターの村松客員教授を中心に

ご検討いただいたキャリア教育の実施元年でもあります。特別教育活動（特活）や土曜日、長期休業期間を利用して学生諸君に自分の人生の価値と学ぶ意義とを考える機会をつくります。また、毎回のテストの答案や特活で考えたことをファイルに束ね1年間の自分の歩みが辿れる「ポートフォリオ（ファイル）」を5月、全学生に配りました。私は今年、沼津高専での教員生活が30年となります。沼津高専が全国に誇れる学校であるとの思いは年々確信となってきております。しかし、教育が困難となってきていることも同時に感じております。保護者の皆様の一層のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。



## よろしくお願ひします

校長補佐（学生主事）  
大久保 清 美

平成24年4月1日付けで学生主事を拝命しました教養科ドイツ語の大久保です。これまで、平成14年度から21年度まで8年間寮務主事を、平成22年度から23年度まで2年間国際交流・教員FD担当の校長補佐を務めて参りましたが、学生主事は初めての役職です。しばらくは何かと行き届かないことがあるかと存じますが、皆様にはどうぞご海容ください。

さて、学生主事の掌理事項は一言でいえば学生の厚生補導に係ることですが、その中でも特に、1. 学生の事故（登下校時・課外活動中など）、2. 学生のメンタル・ヘルス（自傷・自殺など）、3. 学生の非違行為（いじめ・犯罪・薬物乱用など）に対する「リスク・マネジメント」に留意しなければなりません。具体的には、1. 登下校時の交通事故防止のために、平素から学生委員会を中心に地道な交通安全指導を繰り返して行います。女子学生には特に、防犯上安全な登下校を指導します。課外活動中の事故防止のために、クラブ顧問やコーチと連携し、安全な活動を確保するためのルールや決まり等が確実に励行されるよう指導を徹底します。2. メンタル・ヘルスを担当する学校カウンセラーや学生生活支援室、さらには保健室と連携し、校内にアンテナを高く張り巡らせ早めの対処をします。3. クラス担任・副担任等と連携し、学生の非違行為の前兆を早めに捉え指導します。

また、教室内外の整理整頓・清掃を徹底させ、落ち着いた学校生活環境を作ります。

学生主事のその他の掌理事項としては先ず、体育祭・高専祭等を含む学生会活動全般に対する支援が挙げられます。今年度の学生会は、学生会長のD4戸本佳佑君を筆頭に皆、学生会を変えようとの意気込みに燃えています。一朝一夕には行かないでしょうが、いずれ寮生会に負けないようなパフォーマンスを見せてほしいと願っています。

高専体育大会・ロボコン大会・高校総体・高校野球大会等の各種競技大会や演奏会等を目指す課外活動の支援も学生主事の重要な掌理事項のひとつです。その他に、1年生オリエンテーション研修や3年生スキー研修等の研修支援、学校周辺クリーン活動等の環境保全、授業料免除・各種奨学金等の経済支援、キャリア教育・就職委員会等も学生主事が掌理します。

このように、学生主事の掌理事項は非常に多岐にわたりますので、共に連携して仕事をしてくださる学生委員会の先生方や学生係の皆様は言うに及ばず、ひいては全教職員・学生・保護者の皆様のご理解・ご協力なしには職務を円滑に遂行することはできません。伏してご理解・ご協力をお願いする所以です。

最後になりますが、学生は本来、学校生活においては勉強以外のことなら何でも大好きなものです。これら学生の大好きなことの大部分を掌理する学生主事として、学生のすばらしい思い出作り、そして人格形成に僅かでも寄与できるとすれば、これに勝る幸せはありません。微力ですが全力を尽くしますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



## 新年度にあたって

校長補佐（寮務主事）  
遠藤 良樹

昨年度に引き続き寮務主事を併任いたします教養科（数学）の遠藤良樹です。3年目になりますが微力ながら皆様のご協力、ご理解を得て務めてまいりますのでよろしくお願い致します。

今年度寮生568名（男子492名、女子76名）でスタートしました。内訳は第1学年215（38）名、第2学年152（22）名、第3学年103（8）名、第4学年66（6）名、第5学年32（2）名、この中にはアジアからの留学生が11名含まれています（括弧内は女子人数で内数）。

寮務関係教員は総勢16名です。主事1名、寮監1名、主事補4名、委員10名で寮運営にあたります。寮監は引き続き福木洋一先生（教養：日本史がご専門）です。寮監2年目となり寮生指導、寮運営に日夜精力的に活動されております。主事補は宮内先生（機械）、西村先生（電気電子）、鈴木正樹先生（教養）、藤井先生（教養）にお願いしました。藤井先生は2年間の高専間人事交流を終えて今年度沼津高専に復帰された先生で、寮務のベテランです。委員の先生方も含め今年度も棟顧問を務めていただき寮生指導を行います。なお委員の中に3名の新任の方、小柳先生（教養：哲学）、山之内先生（電気電子）、山崎先生（制御情報）をお迎えしました。

寮務係は定年退職された佐野前係長にかわり、岡本前図書係長が寮務係長に戻られました。他に5名の補助の職員が学生の対応に親身になってあたっております。この中には山添前学生課長（再雇用）、佐野前寮務係長（再雇用）が含まれており寮務係は充実した布陣となっております。また田中寮監補の勤務日数も増え、女子寮運営に安心感が増しました。

寮生会は今年度も素晴らしい働きをみせています。その寮生会の3役を紹介いたします。寮長は川口直輝君

（E5）、副寮長は塚本竜馬君（S5）、宮川綾音さん（M4）の2人です。川口君は昨年度副寮長で今年度寮長に選出されました。塚本君（前年度優峰棟長）、宮川さん（前年度明峰棟企画）と3人で寮生会を牽引してくれています。他に本部役員24名、計27名の意欲と能力がある学生が今年度の寮の中核を形成しております。

活動報告を簡単に致します。

4月：入寮式、開寮式、寮生総会、親睦会

5月：防災訓練、寮祭前夜祭、寮祭

この間に朝礼2回、木曜会（教員と寮生会との合同会議）を3回行いました。入寮式の日には寮生会の働きにより新入生の荷物搬入も無事終了しました。親睦会も無事楽しく終了しました。防災訓練は地震を想定したもので、注意情報、予知情報が発せられたという想定で訓練を行いました。いくつかの問題点も浮かび上がってきましたのでこれからの訓練に活かし改良していきます。そして寮最大の行事、寮祭も今年は天候に恵まれ柳下校長をはじめ多くの保護者の皆様、教職員、卒業生、近隣にお住まいの方々の来場を得まして盛況のうちに終了しました。お越し下さった方々にお礼申し上げます。今回は51回目の寮祭で新たな半世紀が始まります。これで寮の行事は一段落し寮生は前期中間試験に向け勉学に励む体制を整えております（このお知らせがお手元に届くころは試験も終わっております）。

寮と地域連携の一環として2009年度から始まりました長泉北中学校学習支援は引き続き今年度も実施する予定です。寮で行っているマテカ（上級生が下級生の勉強の面倒を見る）とともにこれからも続けていくことができたらと思います。

話は変わりまして寮の暑さ対策の一環として昨年度から始まりました各居室への空調機器設置ですが、女子寮に続き今年度は男子寮の全居室にエアコンが設置される予定です。このエアコンはリースによるもので寮生の保護者の方にはリース料金をご負担して頂くことになると思います。ご理解ご協力お願い申し上げます。

では今年度もどうぞよろしくお願い致します。



## 新年度にあたって

校長補佐（専攻科長）  
遠山 和之

今年度も専攻科長を務めさせていただきます。専攻科長代行に電気電子工学科 高野教授を指名し、企画運営委員に、機械工学科 村松教授、電子制御工学科 大庭准教授、制御情報工学科 鈴木康准教授、物質工学科 藁科講師、教養科 澤井講師の7名体制で専攻科の企画運

営を進めていきます。専攻科を本年度もどうぞよろしくお願い致します。

さて、本校専攻科は平成8年に設置され、本年度で17年目を迎えます。4月に新入生22名を迎え、1、2年生を合わせて52名の学生が在籍しています。本年度の専攻科自治会の自治会長は制御・情報システム工学専攻2年の渡邊俊哉君です。専攻科の担当教員は64名で、手厚い指導による少人数教育を実践しています。専攻科は本科4、5年の教育課程とともに「総合システム工学」教育プログラムを構成しており、本科・専攻科での専門分野の教育を基礎に、現代の産業ニーズに合った境界領域にも目を向けることのできる技術者を育成することを目指

し、平成16年度より日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けています。

今年度より専攻科入試について選抜方法を見直し、①学力試験「英語」を廃止し、TOEICスコアの報告に変更、②学力試験を記述式に変更、③口頭試問の廃止の3点の変更を行いました。専攻科は平成26年度より1専攻3コース制（医療福祉機器開発工学コース、環境エネルギー工学コース、新機能材料工学専攻コース）をスタートさせる準備を進めておりますので、この新しい専攻科への進学を是非とも前向きにお考え頂ければと思う次第です。なお、TOEICスコアは受験日より過去2年間のスコアが有効です。

「国際性豊かな技術者の育成」という産業界からの要請に応えるべく、海外インターンシップや国際交流プログラムへの派遣、国際会議への参加等を積極的に進めております。この一環として、本年度から専攻科前期に開講している「技術英語Ⅰ」（担当：大沼教員）では、授業の後半部分に外国人講師（Jim Molloy氏）を迎えて、英語によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を伸ばす取り組みを始めました。選択科目ですが大変好評で20名の学生が受講しており、これをきっかけに海外へ目を向ける専攻科生が増えてくれればと思う次第です。



**（続々）沼津高専の新たな教育  
が平成24年度4月よりスタート  
しました**  
—混合学級と学際教育の導入—

校長補佐（学際教育担当）

**押川 達夫**

沼津高専だより第99号および第100号において、学際教育に関するご説明を行ったところです。本年4月に新たな入試制度で入学した1年生より学際教育が始まりました。初々しい新生が学科の枠を越えたクラス編成とその中での工学基礎を学習する彼らの成長が大変楽しみです。

改めてご説明いたしますが、学際教育の目的と意義は幅広い専門分野の知識と技術を備えた人材の育成を目標とし、幅広い知識と深い専門性を備えたエンジニアの輩出を目指すものです。

例えば、私（物質工学科所属）の話で恐縮ですが「テストの使えない化学を専攻する学生」あるいは「電気器具を正しく使えない化学を専攻する学生」に困惑したシーンがありました。これは将来の企業技術者候補生としては恥ずかしいことです。勿論、そのために各専門学科では他分野の専門性を補う科目が設定されております。しかしながら、異分野の工学に共通した工学基礎を身につけるには、低学年よりしっかり学習することが大切です。1年生が学習する工学基礎Ⅰおよび工学基礎Ⅱにつ

沼津高専だより第100号でお伝えしました通り、昨年度10月1日付で専攻科の修了要件から学士の学位取得を外す学則の変更を行っております。ただし、学士の学位申請時の学習成果レポートの複数名の教員によるキメ細かい指導は継続して行っており、昨年度は、修了生32名全員が学位授与機構の審査をパスしております。この32名の専攻科修了生のうち、17名が就職、15名が進学を果たしています。世界的な経済不況が続く中、企業の求人状況は決してよいとはいえませんが、専攻科もその知名度が徐々に高まってきたためか、専攻科生を対象とした推薦募集もかなり増えました。一方、大学院による専攻科生の受け入れ状況は、高専出身者の高い能力が定評を受けており、例年大変に活発です。昨年度は、東京工業大学、名古屋大学、山梨大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学等の大学院の先生方が本校に直接説明にお見えになりました。本年度は、18名の学生が就職を希望し、9名の学生が進学を希望しており、6月上旬時点で18名中12名の学生が内々定を頂いております。

本校専攻科では今後とも、学生や社会にとって一層魅力のある教育課程を提供することを目指して努力して参りますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

いて、紙面の余裕がございませんので詳細は省かせていただきますが、前述各科目の先生方および実験実習をサポートしていただいている技術職員の方々の懇切丁寧な指導により、確実に基礎を身につけていくであろうと確信しているところです。工学基礎Ⅱの実験実習の様子を下記の写真に示します。毎週水曜日は各専門学科指定の作業服を着用し、寮から各自登校しています（上写真：モーターの仕組み、下写真：食品成分の検出）。



一方、学際教育の一環であるミニ研究は今年度の2年生より開始しました。全教員からミニ研究テーマが提案され、一教員に対して2～3名の学生配属が決まり、ミニ研究が始動しました。学生自ら調査し、自己解決する姿勢と行動および創造性を身につけて欲しいところです。教員によっては、夏休み集中型で実施する場合もありま

す。3年生以降の学際科目については、教室のインフラ整備と併せて担当科目の教員の準備を進めているところです。いずれにせよ本校の歴史上初めての混合学級導入のため、学生の動向等を含めて担任や副担任の教員からの報告機会を設け、全教員が情報共有しながら円滑な運営を担っていきます。



## 機械工学科の今後

機械工学科長  
小林 隆 志

本校創立50周年の節目の年を迎え、さらにこの高専だよりも101号となり、沼津高専50年の歴史の上に新たな時代に入ったことを感じております。実際、新入生からは混合クラス、学際教育を狙いとした新カリキュラムが導入され、大きな改革がスタートしました。5年後に、より幅広い分野に対応できる技術者が巣立つのを楽しみにしています。

この3月には機械工学科34名が卒業しました。22名の学生が就職、12名の学生が進学し、それぞれの道を歩みます。近年、テレビ、半導体、自動車分野などで韓国・中国企業が躍進し、これまで日本企業が得意としてきた分野で優位性を失いつつある中で、日本が再び元気を取り戻すよう、中心となって活躍されることを期待しています。

今年は桜の開花が遅れ、入学式ではちょうど満開の桜の下、機械工学科には1年生42名、3年次編入生1名、マレーシアからの留学生1名が入学しました。機械工学科の学生の就職・進学状況はとても恵まれています。今年度の就職に関しては求人倍率14倍以上、5年生の就職希望者24名のうち既に14名が内々定をいただいています(5月18日時点)。大学編入について、最近の実績として

は、北海道大学、東北大学、名古屋大学などをはじめとする国立大学へ進学しています。自分の将来を見据えて、学業とともに寮生活、部活動など幅広い経験を積んで下さい。必ずや皆さんの夢は叶います。

静岡県東部地域の産業振興を目的として、東部地区企業と沼津高専を中心に設置された東部地域産業技術振興協会(会長：柳下校長)が今年で30周年を迎えました。先日、この会の記念講演においてトヨタ自動車九州取締役社長二橋岩雄様(本校機械工学科4期卒業生)が講演されました。印象的であったのは、「現場重視」、「規律訓練」のお話でした。企業にとっては、現場が重要であり、安全や規律は当然のこととして大前提とこのことです。本校では全学科の学生を対象として機械実習教育が実施されています。ここでは「気をつけ。右へならえ。番号!」というような点呼が代々行われています。難しい専門科目のことは忘れたけれど、実習のことは記憶に残っていると多くの卒業生から聞きます。二橋社長も高専時代に厳しい服装チェックを受けた思い出があると話して下さいました。15歳の時期のこうした体験は無意識のうちに身につけており、会社に入っても役に立つとのこと。今後も良き伝統として、継続していきたいと考えています。今秋、実習工場の改修工事が行われ、ものづくりセンター(仮称)として生まれ変わります。

機械工学科は今後も時代の変化に対応しながらも、知識に偏らない、安全にも留意しチームワークを発揮できる「現場力のある技術者」の育成に努めてまいりたいと考えています。保護者の皆様をはじめ関係各位のご支援ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



## 新年度にあたって

電気電子工学科長  
佐藤 憲 史

平成24年4月から、前任の望月孔二教授より電気電子工学科の学科長を引き継ぐことになりました。よろしくお願ひします。4月から、新しく山之内亘助教が加わり、また、教員交流で豊田高専に2年間勤務していた大澤友克講師が復帰し、11名の教員体制でスタートしました。

新年度となり、当学科では42名の新入生を迎えました。また、マレーシアから1名の留学生(3年編入)と3名

の編入生(3年編入2名、4年編入1名)を迎えました。本年度から新しい教育カリキュラムが導入され、1年生は混合学級となります。新入生への学科説明や上級生への学科ガイダンスを通して、教育目的や学びの意義、当学科の特徴をお話ししました。環境・エネルギー問題解決に直結する電力技術から様々なシステムで必須となるエレクトロニクスまで、ハード(物理)の基盤技術と、その基礎となる電磁気学や回路の学習が重要であることを述べています。学生が5年間で各自の得意な分野を見つけ自信を持って卒業できるように教育していきたいと思ひます。当学科は、50年前の沼津高専創立時、「電気工学科」として発足しました。そのような歴史があり、カリキュラムにも伝統的な内容が引き継がれていますが、科学技術の進歩に沿った改訂を行っており、さらに進展



させたいと考えています。

沼津高専で昨年度実施された入学試験では、志願者数が大幅に回復しました。全国的にも高専の入試志願者が増加しています。これは、就職において堅調な工学分野の人気の回復し、その中で高専教育の真価が見直されていることの表れと考えます。しかし、当学科においては、推薦入試では志願者数が増加したものの学力入試では減少し、他学科に比べ出遅れました。この現状を打開するために、学科の教育内容や進路をわかりやすく広報していく方針です。その一環として、学科のホームページ(<http://www.denki.numazu-ct.ac.jp/>)の充実を図り、少なくとも月に一度は新しい記事を掲載するようにしています。ぜひご覧いただき、ご意見などありましたら遠慮なくメール等でお知らせください。



## 平成24年度にあたって

電子制御工学科長  
川上 誠

昨年度に引き続き、平成24年度の電子制御工学科長を務めさせていただくことになりました川上です。よろしくお願い申し上げます。

平成2年に和歌山高専から移って来られました舟田先生が、この3月末で定年を迎えられました。数多くの業績を上げられたことにより、本校名誉教授に推挙されました。舟田先生は特任教授として今年度も学生の教育・指導に当たっていただきます。

今年度は、新入生を42名迎え、本科生は合計212名でスタートしました。担任は2年生から順に、佐藤誠(教養科体育)、長澤、出川、そして5年生が牛丸です。副担任として2年生は青木が担任をサポートします。1年生に関しては今年度から混合学級になったこともあり、学科の担任という概念はありませんが、1-3の副担任である大沼が電子制御の1年生の副担任的な役割を担います。

4月の19、20日には、新入生オリエンテーションが学内で実施されました。初日の午前中には本校の教育理念や教育目的など学校全体の話があり、午後は各学科に分かれて学科説明を行いました。学科の先生方の紹介や、今後のカリキュラム、勉強の仕方、心構えについての説明などを行いました。今年の1年生は緊張した面持ちの中、非常に熱心に耳を傾けてくれました。2日目のドッジボールでは怪我をするほど張り切った学生もいたようですが、オリエンテーションが終わる頃にはかなり打ち解けた様子が見られました。また、学業に対しても教員に積極的に質問をするなど、学校に馴染んできた様子が窺えます。

さて、平成24年度開始にあたり本学科の運営方針を昨

最後に、就職や進学活動について近況をご報告します。当学科の5年生は40名おりますが、就職希望者15名、進学希望者24名と、やや進学希望者が多くなっています(1名は海外留学で休学中)。就職における求人状況は昨年よりやや良好であり、これまで91社から採用担当者の訪問がありました。就職活動は時期が早まる傾向にあり、すでに12名の学生の内々定をいただいております(6月15日現在)。進学については、例年同様、すでに入学願書の提出が始まっています。現5年生は勉学意欲も高く、例年にも増して好結果を得ると期待しています。

学生の成長のため教員一同全力で取り組んでおりますので、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

年度と同様に以下のように決めました。

- 1. 留年・退学学生を減らし、怠学をなくし、確かな学力・人間力を培う**  
学習意欲の向上のために、昨年度にも増して低学年のキャリア教育を充実する。
- 2. 学生確保対策**  
出前授業や地域のイベント等に積極的に取り組む。
- 3. 学科の将来計画とカリキュラムについての検討**  
社会の要請に合った新テーマについて、カリキュラムの企画やスケジュールを立案するとともに、学科の将来計画を検討し、卒業研究等で教材整備を行う。
- 4. 地域産業との連携**  
共同研究の推進、インターンシップや卒業研究での関わり方について検討する。
- 5. 工作機器の安全対策**  
全学で共通に利用できる工作室の設置の可能性について模索する。また、本学科工作室の工作機器利用の安全対策をさらに推進する。
- 6. 学生のモラル向上**  
マナー、他人への思いやり、相手を理解し尊重する気持ち等を育てる。  
簡単に申しますと、学生の安全を第一に考え、学生にとってもこれから入学を目指す中学生にとっても、また地域の企業にとっても魅力ある学科を目指していこうということです。  
最後に、現在までの5年生の状況についてお知らせします。本年度の5年生は40名、うち21名が就職を希望しています。本年度の求人数はほぼ290社で、6月8日現在で就職先から内々定をいただいている学生が18名です。また、進学希望者のうち本校専攻科を希望しているものが8名です。最近では企業の業績が少しずつ回復する兆しが見られますが、学生にとっては厳しい就職活動が続いている状況に変わりはありません。それにもかかわらず、まだまだ甘い考えを持っている学生が見られます。進学に対しても、将来自分は何をしたいのか考えることなく、

何となく大学に行きたいと思っている学生もいます。自分というものをしっかりと見つめ、自分の将来を真剣に考える学生になってくれるよう指導していきたいと考えています。

今後とも、保護者、学生、教員の三者が信頼関係を保

ちつつ、「人柄の良い優秀な技術者」を輩出すべく学科を挙げて努力していきたいと考えております。保護者の皆様方のご支援とご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



## 平成24年度を迎えて

制御情報工学科長  
長谷 賢治

風薫る5月、ますますご健勝の事とお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。キャンパスは今、新入生を迎え、活気に満ち溢れ、生命のもつ「成長力」を最も感じる時です。この紙面をお借りして平成24年度制御情報工学科の学科運営などを記してみたいと思います。

その前に、まず悲しいお知らせをしなければなりません。今年3月、鈴木茂樹准教授が急性心不全で倒れ、そのまま帰らぬ人となりました(享年48歳)。故人は制御情報工学科が誕生した平成4年より、学科の屋台骨を支えてきた中核の人物です。その当時、先端的だった「オブジェクト指向型言語C++」の可能性を読み取り、3年次演習にそれを組み込むなど時代の潮流を読める人間でした。ここに謹んで哀悼の意を表したいと思います。

さて、今年度の学科運営に話を戻します。まず、本学科のミッションの再確認からいたします。われわれのミッションは、「コンピュータを応用したシステムの設計、製造、運用の分野において、自ら考え、行動できる実践的な技術者の養成」です。このミッション遂行のための教育システムを備えているのが制御情報工学科です。この教育システムは、新入生を引き受けて、彼らに教員・技術職員による教育課程に沿った教育的アクションを与えることで、社会的価値のある卒業生を出力することを目的としています。この教育システムで重要な部分は(1)教員、(2)教育課程です。もちろん、(3)中学から受け入れる新入生の質の確保も重要です。まず、(1)の教員集団については、今まで本学科の弱点だった通信工学に、その道のプロフェッショナルである山崎悟史助教をお迎えして戦力の増強を実現し、通信機能を強化したメカトロ教育の展開を図ります。また、技科大高専間人事交流制度を

活用して、ブレイン・マシーン・インターフェースの研究のため豊橋技科大へ転出されていた宮下准教授(数理神経科学)が復帰いたします。この2名の教員スタッフを加え、大島(水圧・油圧工学)、吉野(ロボット工学)、長谷(制御工学)、藤尾(CAD/CAM)、芹澤(電磁波工学)、鈴木康人(情報科学)、大久保進也(光情報工学)、松本(数値流体力学)の総勢10名で学生の教育、指導に全力であたっていく所存ですのでよろしくお願いいたします。

次に(2)の教育課程について、第一年次に共通実験等を導入したことにより、本学科の2つの骨組みだった演習系、すなわち、コンピュータを自在に操るためのプログラミング言語演習ならびに機械を知能化するためのメカトロニクス演習の大幅な見直しをいたします。そしてテーマを聞くだけで受講したくなる魅力ある演習内容にしたいと考えております。加えて、第4年次開講の「創造設計」です。今年度のミッションは、「健康増進機器を開発せよ!」となりました。高齢者介護問題、高齢者医療問題を受けて、「健康とは何か」を再考し、そこから製品の企画をします。どのような製品が生まれるのかご期待下さい。

最後に進路についてです。景気低迷に伴い就職難が続いている中、今年度の第5年次学生38名のうち就職希望が14名、進学希望が24名です。ついに進学希望の割合が6割を突破しました。しかし、知的好奇心旺盛な学生が増えたと素直に喜べない現状であります。今年度の就職活動の傾向は、自由応募で内々定を勝ち取っていく学生が目立ちます。彼らは真の「実力」を蓄え、われわれから見ても堂々としています。彼らから後輩達へのメッセージは、「真の実力を蓄えよ、さらば道は開かれる!」人生は一日一日の地道な積み重ねです。一日一日を丁寧に生きてもらいたいものです。

以上、簡単ですが制御情報工学科の学科運営等についてお伝えさせていただきました。スタッフ一同、全力で教育・研究に従事いたしますので、皆様方のご理解、ご協力の方、よろしくお願い申し上げます。



## 工業化学科設置から 46年を経て

物質工学科長  
芳野 恭 士

昨年度に引き続き学科長を務めさせていただきます。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。今年度は本校開校50周年の節目の年になりますが、物質工学科の前身である工業化学科は、機械工学科、電気工学科（現電気電子工学科）の設置より4年遅れて設置されましたので、工業化学科と物質工学科を通算し、今年度の入学生はC47期生となります。これまでに、毎年優秀な人材を日本の産業界に輩出してきました。物質工学科は、平成元年に工業化学科の改組により設置されましたので、工業化学科が23期、物質工学科が24期となり、入学生の段階では物質工学科が工業化学科の年数を上回ったこととなります。物質工学科の設置とともに平成元年に本校に赴任した私としましては、大変感慨深いものがあります。今年から新入生は、1年間学科ごとのクラスではなく所属学科が混ざった混合学級となっており、学科の実施する授業は限られていますが、学生たちの顔を見ると中学校と異なる授業時間や寮生活への戸惑いの中にも、少しずつ落ち着きが見られるようになってきたのではないかと思います。

今年度の物質工学科の学生現員は、今春の推薦選抜倍率約3.0倍、学力選抜倍率約3.4倍の難関を突破した1年生44名をはじめ、2年生44名、3年生43名、4年生49名、5年生38名となっています。4年には、高校からの編入生2名を迎えています。また、ラオス、インドネシア、マレーシアからの留学生3名が、4、5年に在籍しています。教員に関しては、1名の定年退職に伴い、民間の大手企業で技術者として活躍されてこられ、大学での客員教授、非常勤講師の経験も豊富な山田祐一郎教授を迎え、一層の実践的技術者の養成のための教育体制の充実化を図っています。

教育課程につきましては、2年生以上は従来の堅実な化学・生物系技術者の育成を目指したカリキュラムを実施するとともに、1年生についてはより視野の広い技術者の養成のための新たな学際教育のカリキュラムを準備し推進しています。いずれにせよ、カリキュラム表の中の必修科目は、学生が卒業までに身につけなくてはならない能力を教授するための最低限の科目として、進級や

卒業のために取得が必要とされる科目です。学業不振学生が微増していることが心配ではありますが、保護者の皆様からお子様を預かっている私達教員としては、演習問題や補習等を実施することによって習熟度を向上させるとともに、今まで以上に学生と接しながら注意深く指導を行っていくよう心掛けています。学科の応援する特別な教育プロジェクトとしては、「門池環境調査隊!」、3年目に入る「宇宙大豆プロジェクト」、「各種化学実験イベントへの応援」を、今年度も実施する予定です。また、従来同様、本学科の教員は大変積極的に地域企業との産学連携開発研究に取り組んでおり、これに卒業研究生（5年生）や専攻科生も参画することで、就職や進学に対するよいオンザジョブトレーニングとなっています。

進路につきましては、昨年度は就職15名、進学28名全員の内定が確定しました。今年度も、就職、進学ともに5月現在において指導中であり、特に進学は6月以降に行われる専攻科および大学の入学・編入学試験に向けて、5年担任の古川教員と各研究室の指導教員が学生の準備を促しているところです。就職指導は今年度より私が行っており、ほぼ昨年度と同様に順調なスタートを切っているように思います。しかし、ここ数年企業の採用のハードルは厳しい状況のまま継続しており、今年度も残念ながら第一志望の企業の試験に落ちる学生が出ています。リーマンショックや昨年東日本大震災に端を発する経済不況から、企業はその組織の再編と採用方針の変更を進めており、そのような社会情勢の変化にも学生、保護者の皆様とともに注意深く目を向けてほしいと思います。今後も企業の厳しい採用状況が続く見通しであることから、毎年学生達に呼び掛けていることですが、(1)日頃の勉学に地道に勤しむ! (2)勉学で理解できないことは放置しないで担当の先生を尋ねて教えてもらう! (3)部活動は退部しないでチームワークを形成する意識を形成する! (4)ネットだけで情報を得るのではなく、新聞や書籍をきっちり読む! (5)クラスの仲間同士で勉強を教え合う!といったことを実行し、学力の向上に努めるとともに将来の社会人としての自分の姿について普段から考えるようにして下さい。保護者の皆様へ、悩み多い年齢とは思いますがお子様を励ましながら、時には厳しい態度で自立を促すよう今後ともご指導をお願いいたたく存じます。私達、物質工学科教員一同も精一杯の力で学生を指導していきます。学生、保護者、教員の信頼関係を高め、有意義な高専生活を学生達に送ってほしいと思います。どうぞ学科の教育活動へのご理解とご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



## 平成24年度の教養科

教養科長

西垣 誠 一

引き続き教養科長を務めております西垣です。よろしくお願ひします。

平成24年度は教養科に2人の新任教員を迎えました。国語の教員として県立高校の教頭を務められた中園孝信先生、哲学の教員として20代のフレッシュな小柳敦史先生を迎えることができました。また、英語科の藤井数馬先生が2年間の香川高専での人事交流を終え、戻ってまいりました。それぞれの先生の詳しいご紹介は、別のところで自己紹介がなされますことから割愛させていただきますが、これまでの経験をもとに沼津高専のために活躍していただけるものと期待しております。

さて、今年度入学の1年生から学際教育を導入した新しいカリキュラムがスタートします。教養科では主に低学年の教育を担っていますが、このカリキュラムのスタートに伴い、1年生では混合学級、2年生ではミニ研究が実施されます。どちらも本校においては初めての試みとなりますが、とりわけ混合学級においてはいろいろと不測の事態が生じることがあるかもしれません。しかしながら、1年生が今までの学生たちと同様に充実した学生生活を過ごせるように、教養科教員一同で、しっかりと地に足をつけた教育を全力で続けていきたいと思っております。

例年申し上げていることですが、教養科の教員の役割として私が最も重要と考えていることに1・2年生の学級担任があります。子供から大人へと成長していく過程で知識の蓄積にのみ偏るのではなく、人間的にも大きく育てほしいと願うところです。中学校まででも、学校生活を送ることでいろいろな社会性を身につけています

が、自分自身についてより深く考えるようになるこの年代では、その年代で初めて理解できるようになることも多くあります。それらは学校生活のあらゆる場面で学ぶ機会がありますが、我々としても「こういう人に育ててほしい。」という思いのもと指導しております。各学級担任は学科の特色も尊重しながら各学年で共通した考えのもと学生指導を行うべく毎年学年目標を定め、その目標を念頭に足並みを揃えて指導するよう努めています。この目標は長年学生達を育てていて、重点をおいて指導すべき事柄として浮かび上がってきているものです。その意味で、社会背景とともに変わってきたものもありますが、昨年度と全く異なる目標というわけではありません。今年度は次のような目標です。

### 第1学年

- 規則を守り、自律した生活を送る
- 授業を大切にし、計画的に学習する
- 他者と自分の違いを理解し、思いやりを持つ
- 公共物を大切にする

### 第2学年

- ルールを守り、基本的生活習慣を身につける
- 時間を決めて、毎日勉強する習慣を身につける
- 個性を尊重し合い、仲間と協力して生活する

この学年目標をクラス内に掲示し、一年間を通して指導していきます。

当たり前のことですが、人生すべて順風満帆ということはありません。沼津高専で過ごす5年間のうちにはいろいろな事があるでしょう。うまくいくこともあれば、壁に当たり落ち込むこともあります。それらの中には自分で乗り越えなければならないこともあります。我々はその手助けを惜しむものではありません。保護者の皆様で、ご心配なことあるいはご意見などございましたら、どうぞご遠慮なく担任までご相談下さい。

沼津高専に入学した学生諸君が多くの知識を蓄えて、心身ともに立派に育ってくれることを願っております。

## 平成24年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成24年3月31日	手塚重久	定年退職	教授（機械工学科）
	舟田敏雄	定年退職	教授（電子制御工学科）
	高橋儀男	定年退職	教授（電気電子工学科）
	相良誠	定年退職	教授（制御情報工学科）
	坂本信男	退職	教授（教養科）
	市川周一	辞職（高専・両技科大間教員交流により豊橋技術科学大学に採用）	教授（制御情報工学科）
	中道義之	辞職	講師（総合情報センター）
	野澤正信	再雇用期間満了退職	特任教授（教養科）
	渡辺敦雄	再雇用期間満了退職	特任教授（物質工学科）
	山添均	定年退職	学生課長
平成24年4月1日	能登路純子	米子工業高等専門学校に配置換	准教授（教養科）
	藤井数馬	講師（教養科）に配置換	香川高等専門学校
	大澤友克	講師（電気電子工学科）に配置換	豊田工業高等専門学校
	宮下真信	准教授（制御情報工学科）に採用（高専・両技科大間教員交流）	豊橋技術科学大学
	山田祐一郎	教授（物質工学科）に採用	
	中園孝信	准教授（教養科）に採用	
	小柳敦史	助教（教養科）に採用	
	山之内亘	助教（電気電子工学科）に採用	
	山崎悟史	助教（制御情報工学科）に採用	
	蓮實文彦	教務主事を併任（新規）	教授（物質工学科）
	大久保清美	学生主事を併任（新規）	教授（教養科）
	入吉修	学生課長に採用	静岡大学監査室監査係長

# 平成24年度 校務分掌

平成24年4月1日 現在

校 長 柳 下 福 藏
副校長（教務主事） 教 授 蓮 實 文 彦
校長補佐（学生主事） 教 授 大久保 清 美
校長補佐（寮務主事） 教 授 遠 藤 良 樹
校長補佐（専攻科長） 教 授 遠 山 和 之
校長補佐（学際教育担当） 教 授 押 川 達 夫
機械工学科長 教 授 小 林 隆 志
電気電子工学科長 教 授 佐 藤 憲 史
電子制御工学科長 教 授 川 上 誠
制御情報工学科長 教 授 長 谷 賢 治
物質工学科長 教 授 芳 野 恭 士
教 養 科 長 教 授 西 垣 誠 一
図 書 館 長 教 授 江 間 敏
総合情報センター長 教 授 望 月 孔 二 (副) 准教授 鈴 木 康 人
地域共同テクノセンター長 教 授 藤 尾 三紀夫 (副) 准教授 竹 口 昌 之 (副) 准教授 新 富 雅 仁
技 術 室 長 教 授 西 田 友 久 技術長 石 和 嘉 衛
学生生活支援室長 教 授 小 林 美 学

実習工場長 教 授 小 林 隆 志
キャリア支援室長 〈欠 員〉
国際交流室長 教 授 鈴 木 久 博

教 務 主 事 教 授 蓮 實 文 彦
教務副主事 〈欠 員〉
教務主事補 教 授 勝 山 智 男 准教授 井 上 聡 夫 教 授 高 野 明 夫 教 授 芹 澤 弘 秀

学 生 主 事 教 授 大久保 清 美
学生副主事 〈欠 員〉
学生主事補 教 授 小 林 美 学 教 授 鄭 萬 溶 准教授 稲 津 晃 司

寮 務 主 事 教 授 遠 藤 良 樹
寮務副主事 〈欠 員〉
寮務主事補 准教授 宮 内 太 積 准教授 西 村 賢 治 准教授 鈴 木 康 人 講 師 藤 井 正 数 講 師 藤 井 数 馬

事 務 部 長 上 原 正 宜
総 務 課 長 五 条 寿 久 課長補佐 露 木 弘 充 課長補佐 影 島 義 三
学 生 課 長 入 吉 修 二 課長補佐 室 伏 啓 二

教 科 主 任
国 語 准教授 大 石 加奈子
社 会 准教授 佐 藤 崇 徳
数 学 教 授 待 田 芳 徳
物 理 教 授 住 吉 光 介
化 学 教 授 小 林 美 学
体 育 教 授 佐 藤 誠
英 語 教 授 鈴 木 久 博
ドイツ語 教 授 大久保 清 美

寮監及び寮監代行	
寮 監	福 木 洋 一
寮監代行	
前 期	火 西 村 賢 治 鈴 木 正 樹
	水 藤 井 数 馬 松 田 伸 也
後 期	火 西 村 賢 治 鈴 木 正 樹
	水 藤 井 数 馬 宮 内 太 積

学 級 担 任							
学年	クラス	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	学年代表
1		鈴 木 正 樹	中 園 孝 信	佐 藤 崇 徳	渡 邊 志 保 美	駒 佳 明	佐 藤 崇 徳
	副	西 田 友 久	芹 澤 弘 秀	大 沼 巧	望 月 孔 二	竹 口 昌 之	
学年	学科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	
2		平 田 陽 一 郎	藤 井 数 馬	佐 藤 誠	佐 藤 志 保	村 上 真 理	佐 藤 誠
	副	松 田 伸 也	江 間 敏	青 木 悠 祐	鈴 木 康 人	山 根 説 子	
3		山 中 仁	大 澤 友 克	長 澤 正 氏	大久保 進 也	大 川 政 志	長 澤 正 氏
4		新 富 雅 仁	嶋 直 樹	出 川 智 啓	宮 下 真 信	藁 科 知 之	新 富 雅 仁
5		永 禮 哲 生	野 毛 悟	牛 丸 真 司	大 島 茂	古 川 一 実	野 毛 悟

## 平成24年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧問教員名			
陸上競技部	渡邊 志保美	牛丸 真司	小柳 敦史		
ソフトテニス部	山根 説子	平田 陽一郎	佐藤 崇徳		
バレーボール部	大庭 勝久	長澤 正氏	村上 真理		
バスケットボール部	遠山 和之	藤井 数馬	松本 祐子		
野球部	大澤 友克	住吉 光介	宮下 真信	中園 孝信	鈴木 正樹
卓球部	稲津 晃司	高野 明夫			
柔道部	西垣 誠一	長谷 賢治			
剣道部	澤井 洋	鈴木 久博			
サッカー部	望月 孔二	江上 親宏	駒 佳明	山之内 亘	山崎 悟史
ラグビー部	井上 聡	小林 隆志	鄭 萬溶		
体操部	佐藤 誠	江間 敏	大久保 進也		
水泳部	小林 美学	新富 雅仁	西村 賢治		
合気道部	長谷 賢治	山田 祐一郎			
テニス部	竹口 昌之	古川 一実	後藤 孝信	西田 友久	
スキー部	嶋 直樹	川上 誠			
ハンドボール部	野毛 悟	松田 伸也	大島 茂		
弓道部	芳野 恭士	佐藤 憲史			
空手道部	芹澤 弘秀	宮内 太積			
バドミントン部	押川 達夫	藤尾 三紀夫	大沼 巧		
トライアスロン部	三谷 祐一朗	出川 智啓			
吹奏楽部	藁科 知之	永禮 哲生			
囲碁将棋部	待田 芳徳	勝山 智男			
ロボコン部	青木 悠祐	山中 仁			
学生会	小林 美学	鄭 萬溶	野毛 悟		
文化サークル連合(科学技術)	鈴木 康人	村松 久巳	大川 政志		
文化サークル連合(文芸・文学)	手塚 重久	真鍋 保彦	吉野 龍太郎	大石 加奈子	

文サ連(科学技術) 機械工学・天文・環境問題研究会・プロコン

文サ連(文学・文芸) 茶道・合唱・軽音楽・ESS

## 平成24年度 学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー

氏名	担当	本職
杉山 賢一	内科医	杉山病院
堰澤 敦	歯科医	せきざわ歯科医院
山口 宜子	薬剤師	たんぼぼ薬局
宇治 友子	カウンセラー	オフィス友
房間 貞	カウンセラー	常葉学園

## 着 任 挨 拶



### 出会ってしまった

電気電子工学科  
山之内 亘

本年4月1日付けで電気電子工学科に助教として着任いたしました山之内亘と申します。雪深い新潟県は魚沼の出身で、長岡工業高等専門学校から長岡技術科学大学・大学院へと進学し修士課程修了までの9年間を長岡で過ごしました。その後、縁あって慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程へと進学し本年3月に学位を取得し現在に至ります。同じ高専機構である長岡高専を卒業しているためか、赴任早々にして何処か懐かしいものを感じています。

始めに、慶應義塾大学の博士課程進学までの経緯について紹介したいと思います。長岡高専在学時に長岡技術科学大学への進学を決めました。当時、「すぐ社会に出るよりは2年間大学に行って学部が終わったら就職しよう」という安易な気持ちを持っていました。ところが、大学編入後のある出会いをきっかけに180度人生が変わってしまったのです。その方は、慶應義塾大学の博士課程在学時の指導教員で、当時は長岡技術科学大学の助教に着任したばかりの先生でした。私は運のいいことに、その先生のいる研究室に配属が決まり、そこでの研究に興味を持ったことで大学院進学を決めました。長岡技術科学大

学では、大学院進学者は約半年間のインターンシップを行い、修士課程で本格的に研究を始めます。この時、割り振られた研究が偶然その先生の研究分野のテーマだったのです。修士課程ではその研究テーマに没頭し、とても有意義な学生生活を送りました。しかしながら、修士1年の時に先生が慶應義塾大学へ転出されることが決まりました。当時、先生の下で一緒に研究を行っていた同期と話し合い、研究を続けていきたいという思いから慶應義塾大学への進学を決意しました。

さて、私に博士課程進学を決意させた研究テーマについて少し紹介します。学術的にはハプティクス（触覚学）という分野の研究です。時々、「触覚」を昆虫などが持っている「触角」と勘違いされますが、人間の五感情報の中の触覚です。簡単に内容を説明すると、アクチュエータやロボットを使って触った感覚の取得・保存・伝送・加工・再現などを行うことです。たとえば、遠くのもの触覚を知ることのできるシステムや人間の触った感覚を保存・再現するシステムを開発しています。近年では、医療福祉分野のためのロボットの開発が必要となっており、触覚を伴う医療福祉ロボットの研究を今後行っていきたいと考えています。

私は、長岡技術科学大学での先生や研究との出会いによって人生が大きく変わりました。それと同じように今後の沼津高専での教育や研究を通じて、何か一つでも学生に影響を与えることができるように頑張っていきたいと思っています。これから、どうぞよろしくお願ひします。



### 技術者からの転身

制御情報工学科  
山崎 悟 史

本年4月1日付けで制御情報工学科に助教として着任しました山崎悟史と申します。出身は東京で、就職してから約十年間を山梨で過ごし、昨年企業の事業所移転で仙台に移った矢先、今回の静岡勤務の運びとなりました。しかし、両親の実家が静岡なので不思議な縁を感じています。

私は大学（精密機械工学）卒業後、数年間大手印刷会社にて業務系ソフト開発、その後約十年間、電気機器メーカーにて半導体製造装置の制御系ソフト業務に従事してきました。一社目では、データベースを活用した業務システムのソフト開発業務に従事しました。二社目で関わった装置は、半導体ウェーハ（単結晶シリコンを薄くスラ

イスした円盤状のもの）にドライエッチングという化学的な処理を施す装置です。それには、ウェーハを処理加工するためにプロセスチャンバーという部位を有しますが、私は主にそのプロセスチャンバー内の圧力や温度などの物理諸量を制御するソフトウェアの設計・開発や装置ソフトの量産化技術、品質保証業務に従事してきました。この間、多くの上司・同僚・後輩・顧客らと喜怒哀楽を共有し、微力ながら自分が関わった装置、技術を世に送り出すことができたのはエンジニア冥利に尽きました。さらに企業時代の後半、これまで培った情報技術を体系化・応用すべく、社会人学生として大学院（情報工学）に進みました。そこでデジタル無線通信に関する研究を進め昨年学位を取得致しました。研究内容を簡単に申し上げます。皆さんもお使いの携帯電話ですが、無線故ちょっと場所を離れるといきなり通話できなくなってしまうことがあります。このような現象をフェージング現象といいます。デジタル変復調や信号処理技術を活用し、このフェージング現象を克服・補償する手法を提案し、高品質な情報通信を実現することが主な研究



テーマです。このような無線技術は、携帯電話を始め、無線LAN・地上波デジタル放送・衛星通信などに利用され、今後の本格的なユビキタス社会を実現する上で必須技術の一つと考えております。さらに、有線に比べて無線は環境負荷低減にも寄与でき、今後更に期待される分野だと思っております。

データベース・半導体製造装置・無線通信。ここでは、このような非線形人生に至った詳細は省略させていただきますが、本校にてこれまでのキャリアを結集し、主に組込

みソフトと無線通信（通信技術）に焦点を当てた教育、研究に努めたいと思います。基本姿勢として、基礎に立ち返って物事をよく考えること、明確に自分の考えを伝えること、しっかりと人と議論することを大切にします。これらの経験は、卒業後どんな分野に進んでも必ず役に立つと確信しています。

教職員・保護者諸氏の御協力の元、これからの情報化社会を担う若いみなさんと力を合わせ、一步一步前進していきたいと思っております。よろしくお願い致します。



## 富士山を望みながら

物質工学科

山田 祐一郎

本年4月1日付で物質工学科に教授として着任いたしました山田と申します。今回ご縁があつて沼津高専で教鞭を執らせていただくこととなりました。最初に私自身についての紹介を、その後で抱負を述べさせていただきます。

私は三重県出身で、大学・大学院で化学工学を専攻し、普通なら化学メーカーに就職するのですが、車が好きということもあり、愛知県の電装品メーカーに就職しました。1977年の入社当初は熱交換器（ラジエーターやクーラー）の生産技術を担当しておりましたが、自動車用メータ表示に新しい薄型ディスプレイが必要であるという要請を受け、液晶ディスプレイの研究開発を開始しました。今では液晶はテレビやスマートフォン等に使われて、身近な存在となっておりますが、当時は「液晶って何？」という段階からのスタートでした。文献を探したり、学会で大学の先生に話を伺ったりと手探りで開発でしたので、試作品は完成したけれど、次の日には表示ができなくなっていた等々、失敗の連続でした。2001年、NHKの『プロジェクトX』第48回でシャープの液晶開発のドキュメンタリードラマが放映されましたが、まさに同じような苦勞をしていたということが後になってわかりました。そんな状況下で開発を進めておりましたが、液晶は自動車用途では単なる一部品にすぎず、液晶開発を自社で進めるべきかどうかについて社内で議論が持ち上がりました。その後、様々な事情があり、関西の家電メーカーへ転職しましたが、その会社はまさに液晶を軸として動いていたので、自分の知識、固有技術を思う存分生かして新しい技術を開発し、それを搭載した液晶ディスプレイを数多く世に送り出すことができました。

そんな中で新入社員を受け入れる側として「昔の俺たちはこんなふうじゃなかったよな」と何か違和感を覚えるようになりました。つまり、自分達の若い頃は「こんな事をやりたい」とか「この考え方でやりたいのですが」と自ら色々なことを提案し、かつ自己主張していましたが、最近の新入社員は提案型ではなく「どうしましょう」とか「どうしたらいいですか」といった指示待ち型の人が増えているように感じ、これは問題だと思うようになりました。

新入社員を受け入れる側から送り出す側に移り、企業ではどういった考え方の人が必要で、何を学校で学んでおくべきかを伝えることにより、少しは彼らの意識が改善されないかと考えました。又、液晶開発にひと区切りついたこともあり、沼津高専の公募に応募させていただく経緯となりました。

こちらに着任してあつという間に2か月近くが過ぎました。高専では化学工学、環境工学、安全工学などを担当いたします。安全、環境への取り組みはCSR（企業の社会的責任）として非常に重要視されており、企業の実例を取り入れて講義をより実践に即したものにしていきたいと考えております。

長く企業に勤めていた間に、少しの成功と数多くの失敗を体験してきました。講義や卒業研究を通して、それらの体験談を学生の皆さんにお話し、彼らの進路選択の参考にしていただけたら幸いと考えております。

私の高専5年生と同世代の娘からは「経験談を話すのは良いと思うけど、決して自慢話はしないようにね。聞いている側は嫌になるから。」と釘を刺されております。念頭に置きたいと思っております。

北に富士山、西に駿河湾を望みながら仕事ができる素晴らしい環境を与えていただきました。企業人から教員への転職ですので、雰囲気や慣例も異なり、不慣れ不十分な点多々ありますが、今までの経験を生かして精一杯頑張りたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



## 子供のころ夢見た 北九州高専

教養科 国語科  
中 園 孝 信

松本清張は『或る「小倉日記」伝』で芥川賞を受賞しました。森嶋外は軍医として小倉に3年間赴任しました。嶋外がつけた日記の行方を障害者の青年が探し求めるという小説です。私は小倉に生まれました。松本清張は私の小学校の先輩です。清張が学んだと思われる木造校舎、木の机、木の椅子で私も学びました。清張の作品はほとんど読みました。『点と線』では東京駅13番線のトリックを本当かとホームまで見に行きました。清張の小説から「考えに思い込みはないか？」ということを知り、自分自身の思考をいつも点検しています。

私が生まれたころはまだ戦争の傷跡が残っていました。人の気配を感じる防空壕の中を探検して遊びました。グラウンドの整備をしていてがれきの中で旧日本軍の手榴弾を発見したこともありました。

荒廃した社会状況の中であっても国民の日本復興の気概は強いものがありました。子供がたくさんいて活気がありました。小学校は1学年1クラス50人で7クラスありました。中学校は1クラス55人で14クラスありました。今では信じられない団塊世代の様相です。男子の優秀な人材は工業高校へ、女子の優秀な人材は商業高校へと進

み、すぐに社会の実践力となりました。福岡県は工業が盛んなので工業高等専門学校は3校ありました。北九州高専、久留米高専、有明高専の3校です。技術者であった父は私を北九州高専へ入学させたいと考えていました。私の夢は北九州高専に入って工業の勉強をすることでした。北九州工業地帯を支える優秀な技術者を育てるのが北九州高専だったからです。

ところが私が中学3年生の時、父は小倉工場から東京工場へ転勤になりました。私の人生設計は変わってしまいました。新しい家は今の埼玉県さいたま市でした。埼玉県には高専が1校もありません。川口はキューポラのある町でたくさん鋳物工場がありましたが工業地帯ではありませんでした。

読書が好きだった私は工業とは違う文学の道へ進みました。今、教養科教員として沼津高専に着任し国語科授業によって貢献できることをうれしく思います。「高専に行って勉強するんだ」という中学生時代の夢が叶いました。授業では考えることを大切にしています。人と違った学生の意見を大切にしています。固定観念にとらわれない自由な発想を重視して授業を行っています。

戦災を受け廃墟から立ち上がった日本は農業国から工業国になりました。当時の高専出身の技術者の尽力の成果であると思います。今、工業国になった日本に再び暗雲が漂うようになりました。戦後の高専の使命とは違った新しい高専の使命が投げ掛けられています。技術革新(イノベーション)に向けて「思い込みはないだろうか?」の言葉を大切にしてお前へ前へと進みたいと思います。



## 高専で哲学を 担当するにあたり

教養科  
小 柳 敦 史

本年4月1日付けで教養科に着任いたしました小柳敦史と申します。一般科目の中でも社会科、特に哲学を主に担当いたします。着任して日はまだ浅いですが、学生のみなさんが授業時に見せる表情から伝わる好奇心、部活動に打ち込むひたむきさ、寮祭でほとぼりするエネルギーを感じるたびに、沼津高専の教員であることの誇りと責任をひしひしと感じています。

私は東京の郊外に位置する三鷹市の出身で、比較的名人としては新撰組局長の近藤勇が生まれ育った場所です。そして近藤勇の後を追ったわけではありませんが、私も大学進学を機に東京から京都へと引越しました。京都大学文学部および大学院文学研究科で学び、この沼津高専で教育と研究に携わることとなりました。

研究上の専門について簡単に説明しますと、私は20世紀初頭のドイツにおけるキリスト教を中心とした宗教思

想について研究をしています。(具体的には、エルンスト・トレルチという思想家を研究対象としています。)100年前のヨーロッパに暮らす人々は、近代が育んできた科学と技術の成果を享受する一方で、科学的な思考からは生きる意味を知ることできないこと、あるいは、高度に技術化が進んだ社会の中では人間の責任が分からなくなっていることに不安を感じていました。そしてこの不安は、第一次世界大戦という史上初めての世界戦争で、近代科学技術を結集した兵器によって膨大な人命が失われたことにより、決定的なものとなったのです。当時の宗教思想には、この時代を生きた人々の不安と、それを乗り越えようとする希望がひときわ深く刻まれています。

100年前のドイツに限らず、哲学とは生きること・生活することの意味を真剣に考えてきた人間の営みです。哲学の授業では、このような先人たちと共に、そして何よりも学生のみなさんと共に、私たちが今の時代の中で働き、学び、生活を営むことの意味を考えていきたいと思っています。

ところで、なぜ新撰組は根強い人気があるのでしょうか。近藤勇は最終的に明治政府に打ち首にされた「罪人」です。新選組がいなければ、もっと早く明治維新が進んだとも言われています。このような保守勢力である新撰

組のどこに私たちは心惹かれるのでしょうか。それは彼らが一結果的に歴史の流れとは逆行するものであったにしろ一時代の激流に真摯に向き合い、自分たちの生きる意味を求めて格闘したからではないでしょうか。

哲学を学ぶことも、私たちの生きる意味を探究することです。それは時として古くさく、不必要なことのよう

にも思えるかもしれません。しかし、真剣に生きようと思うなら、真剣に物事を考えることを避けて通ることはできません。私もまだまだ未熟者で、思い悩むことばかりですが、学生のみなさんをはじめ学校に関わるあらゆる方々と共に考え、学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。



## 自己紹介と高専の感想

学生課長  
入 吉 修

本年4月1日付けで事務部学生課長として着任いたしました入吉修と申します。前歴は、東京大学に採用されてから、静岡大学、国立中央青年の家（現：国立中央青少年交流の家）、再度静岡大学を勤務し、今回の赴任となりました。今までは、主に会計関係の業務を担当しておりました。高専での業務経験はありませんが、学生課スタッフの支援のもと、新しい視点及び考えを持って、学生及び高専のために業務を行いたいと思います。

私の出身は埼玉県です。私の先祖は海に関わる仕事をしていたので、その影響か、海のそばで暮らすことに憧れていました。それから、日本の象徴である霊峰富士山に対しても特別の思いがあります。この二つへの憧れと大自然にひかれ、静岡で勤務することを希望してきました。引き続きここ沼津の地で勤務できることは、大変喜ばしいこととなりました。

ところで、皆さんの富士山への思いは「登る派」ですか、それとも「見る派」ですか。私は、「登る派」です。もちろん他の山などから眺めることも幸せな気分になりますが、私はある理由により、平成4年から毎年登るようになりました。時には1年に3回登ったこともあり、これまでに30回は登りました。登山をする際は、単独の

登頂者とグループの登頂者がいます。それぞれが挑戦であったり、助け合いであったり、そういう様子が登山の最中に垣間見られます。これは人生に似ていると思います。何事も準備し、協力し合い、ある程度の期間継続し、そして反省し、進化することが登山にも人生にも必要だと思うからです。私は今年も富士山に登るつもりです。気力と体力が続く限り挑戦していきたいと思っていますが、いつまで登り続けることができるのでしょうか。

さて、高専に着任してからの感想を2つ述べさせていただきます。1つ目は、挨拶です。高専の朝は、学生の挨拶する声が響き渡ります。学生同士はもちろんのこと、廊下で教職員とすれ違う際でも声をかけられます。挨拶されると気持ちよく嬉しいものです。挨拶は生活の基本であり、コミュニケーションのきっかけにもなります。元気の良い挨拶を是非、将来社会人になっても続けて欲しいと思います。

2つ目は、5月13日(日)に実施された寮祭についてです。寮祭は、寮生による実行委員会によって、学生自身が企画立案、実施、管理を行っているそうです。先輩・後輩が一体となって出店し、大きな声で売り込みをしたり、ステージでパフォーマンスをしたり、また目立たないところでは道路の整理要員などでも、学生の姿に活力を感じました。今後の本校での学生生活で、勉強や研究だけでなく、人柄も成長していくところが楽しみです。11月には高専祭も行われますので、是非皆様も来校いただきご覧になっていただければ幸いです。

最後に、微力ではありますが、今後の高専のさらなる発展に尽力いたしますので、よろしく願いいたします。

## 新入生から (入学にあたり)

### 高専生の特権を大切に

1年1組 木 下 真 優

桜が美しく咲き誇っていた入学式。大きな校舎と多くの先生方。そして、大きな手本となる先輩たちが私を迎えてくれた。いろいろな不安を抱えながらも、私はこの日、高専生としてスタートラインを切った。

あの日から1カ月がたった今、あの満開だった桜の木がいつの間にか鮮やかな葉桜へと変わっている。そして、

私自身も少しずつだが、高専生という新しい色に変わり始めているのであった。しかし、立派な高専生になれるのはまだまだ先のことだろう。なぜならずっと生徒として過ごしてきた自分が急に学生になり、さらに寮生にもなって今では戸惑うことが多いからだ。学生として自分から学び、寮生として寮の規則やマナーを守るというのはとても大変で難しい。そして、普通の高校だったらこんなに苦労はしないのだろうなと思うこともある。でも、私は気付いた。高専には普通の高校では絶対に味わうことが出来ない楽しさがある。それは、仲間と共に寮生活をする楽しさである。寮生活では決められた時間内に食

事や入浴などをするため自由に行動できる時間が限られている。しかし、そのような規則の中であっても仲間と共に過ごせるのはとても楽しく、充実した日々を過ごす事ができる。これこそ、普通の高校にはない高専生の特権である。また、寮生会で行われるにぎやかなイベントに参加し、学年に関係なくすべての寮生と共に笑い合えるのも高専生にしかない特権であると思う。このように高専生になった自分には様々な特権があるということに気が付き始めた。しかし、寮生活で慣れていないこともまだまだ多く、戸惑うことがこれからもあるだろう。しかし、これからすべての高専生活は我ら高専生だけの特権なのだ。だからこそ高専生の特権を大切に、高専生である今を精一杯に頑張っていきたいと私は思っている。そして卒業していった先輩たちのようにいつか自分の夢をか

なえたい。社会に貢献できる人になりたい。さあ、今から頑張っていこう。人柄のよい優秀な技術者を目指して…。



## 一番初めに学ぶもの

1年2組 斉藤日向

4月8日、入学式の日。僕は緊張した心持ちで校舎を見上げました。なぜなら沼津高専に入学し、夢に一步近づく事に喜びを感じながら、それ以上に高専という特殊な環境、新しい同級生や教職員の方々、寮生活に不安を抱えていたからです。

入学式前の待合室は、驚くほど静かでした。周りから何の話し声も聞こえず、自分の表情が硬くなるのを感じました。しばらく時計の針ばかり見ていましたがふと一人と目が合い、僕がぎこちないお辞儀をすると向こうも



また、笑顔でお辞儀を返してくれました。それを機に会話生まれ、時計の針も動き出しました。教室の空気は和み、それと共に僕の心も満ちていく感じがしました。

心配していた寮生活では礼儀正しいあいさつを心がけ、上級生の方から様々なことをやさしく教わり、接していただいています。不安だった日々が少しずつ輝きを増していきました。また、あるミーティングで、階長に「なぜあいさつをするのか。」と質問されました。それまでなんとなくしていたあいさつが高専内だけでなく、毎日の生活の中でどれだけの意味を持ち支えられてきたのかを知ることができました。

僕はここにきて「あいさつ」・「礼儀」が持つ人と人をつなぐ力に触れ、それらに毎日助けられています。沼津高専の「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」という教育理念のもと、専門科目を含め長く学んでいきたいと思えます。また、優秀な技術者として立派に社会に出るためには、これから学んでいく専門的知識と共に、あいさつや礼儀といった当然のことがとても大切で、まず初めに学ぶものでありずっと学び続けなければならないものだと思うようになりました。

5年間の生活を経た後、沼津高専卒業生として社会に出るとき、人柄のよい優秀な技術者であり、そういった当たり前のことを正しくやれる人になりたいと思えます。この想いを持ち続けながら、一日一日学び、成長していきたいと思えます。

## 沼津高専に入学して

1年3組 宮崎翔大

沼津高専に入学してから早くも一カ月がたとうとしている今、不安の多かった入学したてのあの頃とは変わって、希望や期待に満ち溢れた毎日を過ごしています。

環境、周囲の人間、全てが変わり、まったくゼロから

のスタートでした。何もかもが初めてで不安だったとき、寮の先輩からこんな言葉をかけていただきました。

“初めてのことを楽しめ”

その言葉をいただいてから僕自身の意識が変わり、日々の風景が変わって見えました。周りがはっきり見えるようになり、不安の多かった日常生活の中でも楽しいことを見つけられるようになりました。きっとこれからの人生で「初めて」のことに出会ってもそれを楽しみ、乗り越えられると思えます。

入学してから僕には目標ができました。それは、「人柄のよい優秀な技術者」になることです。この想いが強くなったのは、ある先生の言葉からでした。僕たち高専生は、すべての国民に支えられ、そして期待されているということに気づかされました。僕は支えてくれている方達のためにも沼津高専でたくさん勉強し、専門技術を身に付け、恩返しをしてたくさんの期待にこたえたいです。人々に寄り添った本当に便利で喜ばれるものを作り、そして人々の笑顔も作り出せる技術者になりたいです。



## 卒業生から

### 近況報告

機械工学科39期 朝比奈 宙

先日、長期休暇前にクレンザーで会社の机を磨いている時だった。同じく沼津高専の先輩と、沼津高専の寮の話題で盛り上がった。入寮時には、竹刀を持った20歳の5年生が迎えてくれた。長泉町への転入届けは、上級生に教えてもらいながら自分達で手続きした。寮の清掃は、床はクレンザーで磨き、窓はガラスマイペットと新聞紙を重宝した。階長のチェックがそこまでやるかと言うくらい厳しいものだった。不祥事と言う言葉は、卒業してからTVでしか聞かないが、不祥事があった時は廊下で全員正座した。決められた時間の点呼、食事、風呂。地元の友人は、携帯電話を持っていた。楽しそうに話すバラエティ番組、ドラマ、流行の歌が分からなかった。15歳の私にとって、不満がないと言えば嘘になる。ただ、他では味わえないものが寮にはあった。そして、学習できる環境もあった。15歳で、こんな貴重な経験ができる同世代はそうはいまい。それが先輩と共通した意見だった。機械工学科本科を卒業し、社会に出て8年目になる。自分の疲労限度を超えるような障害が繰り返し発生した時、ダンパーのような役目で制振してくれる、それは私が寮生活で得たものである。

現在私は、ヤマハモーターエンジニアリングでオート

### 「なぜなぜ」

制御情報工学科9期 秋山 公太

私はトヨタテクニカルディベロップメント(株)に入社し8年目、トヨタ車の開発に携わる中で、車両運動制御のスペシャリストになるべく奮闘の毎日を過ごしています。

バイや乗り物の車体強度・振動実験を担当している。歪ゲージや加速度ピックアップといった機械工学科の学生に馴染深いセンサも良く使う。ホイーストンプリッジ回路やFFTといった言葉も馴染深いものだと思う。高専で学習した学問も役に立つ。金属材料学(井上先生には、愛ある指導をよく頂いた)、材料力学(西田先生は、テニス)、振動工学(小林先生は、優しい)、工業力学(宮内先生は、空手部顧問で大変お世話になった)が重宝する。恥ずかしながら、未だ理解できない事が多々有り、もっと勉強しなくてはと日々思っている。

時間は、誰に対しても平等に時を刻むが、自由に使える時間は誰しもが平等ではない。そんな情けない言い訳をする私だが、漠然としている今後の目標を披露して最後にする。

『進化する』: 既存の技術、学問、様々な人たちとコネクションを築き、知見を広める。

『深化する』: 得た知識を自分のものとし、熟成させる。

『新化させる』: 『進化』『深化』によって得られたものを融合させ、新しいものを作り出す。

サミエルウルマンが書いた青春というポエム(1年生の美術で習って、バイブルとなった)のような青春中の私から学生の皆さんへ

『共に、人柄の良い技術者は勿論、世の期待を上回る活躍をしよう』

NCT STUDENTS BE AMBICIOUS!

車両運動制御とはモータ等を自在に操り、車の走る、曲がる、止まるなどの車両運動をより高次元にコントロールし安全、快適にすること。極限でいえば、勝手にハンドルをきってくれる自動運転や地面からの衝撃を完全に吸収する揺れない車などを実現できる、興味の尽きない分野です。

さて、世の中は難しいこと、面倒なこと、どうでもいいこと…なんでこんなに多いのでしょうか。自分もそうで

したが、学生の場合、最たるものは勉強ですよ。目をつむったり、適当に流したりしてしまうことも多々。ただ、もし過去の自分と話ができるなら、「自分で考えること、納得することを放棄するな」と伝えたいです。決して、テストで100点を取れ、という意味ではありません。簡単に言えば、その勉強で得た知識はどう活かせるの？という問いに答えられるかが重要ということです。テストでいい点をとるため、進学・就職するため、ということは答えになりません。進学・就職試験で勉強の成果を問われるのは、当然その後その知識を使うからなので、その先を考える必要があります。例えば数学。自分は得意な方でしたが、会社ではなかなか活かせませんでした。複雑な車両運動の数式を解いてみせても、そのままでは人には伝わりません。車がどういう動きになるのか、本質を理解し、それを伝えることが必要となります。学生時代に公式丸暗記の断片的な知識でなく、物理現象と紐付けて体系的な知識にできれば、どれだけよい仕事ができるだろうと思います。

少し話は変わりますが、筋トレは動かす箇所を意識すると効果が上がるといいますよね。勉強もまず活用方法

を理解した方が、結果的にテストにも良い効果が生まれると思います。でも時間や労力を要することは間違いないので、実際は割り切りも必要となります。但し、それは諦めや投げ出すのではなく、しっかり理由を付け、信念を持った上ですることが重要です。勉強を例にしましたが、これは生活全般に言えることです。自分の行動について、なぜ今それをしているかを考えてみてください。繰り返し5回なぜと問いかけると、新しい発見があるかもしれませんよ。なぜ今自分はTVゲームをしているのか？楽しいから。なぜ楽しいのか？強い敵を倒すのが、面白いから。なぜ強い敵を倒すと面白いのか？達成感が得られるから。なぜ達成感が得られるのか？操作がうまくなったことを実感できるから。なぜ操作がうまくなったことを実感したいのか？…なぜでしょう。ここまでくると、あれ、本当にやりたいことだけ？と思いませんか？

最後に、皆さんは今この瞬間から意識を変えて何かに取り組むチャンスがあります。ぜひ、がっちり掴んでください。



## 『鳥の目、虫の目、魚の目！』

物質工学科32期

小川 健二郎

はじめまして、小川健二郎と申します。私は、平成15年に物質工学科を卒業後、平成17年に専攻科応用物質工学専攻を修了した卒業生です。現在、『株式会社わかさ生活』に勤めています。私が社会人経験を通じて感じ得たことについて、書かせていただきます。

### ■学生時代は広く学ぶこと。専門性は会社で磨けば良い。

これは、私が会社で働く中で感じ得たことです。高専時代の学習が全てそのまま会社で活かされることは、ほぼあり得ません。しかし、今貴方が学んでいることは今後の業務や技術開発など様々な場面で考えの礎となる、確かな基礎知識であることは間違いありません。企業にとっては、学生の基礎知識が豊富であるに越したことはありません。必要とされるのは、その知識を活かして広く多面的な視野と考察力を持つこと、何より新しい技術を生み出す応用性と独創的な発想です。専門性は、企業に入った後にその企業内で当たる職種を通じて身に付きます。最も危険なのは、学生時代に培った知識が自分の財産の全てであるかのように錯覚し、狭い視野でしか物事を考えられない学生になってしまうことです。学生時代には基礎知識を広く学んでおくことが大切です。

### ■大切なのは知識・技術ではなく、考え方を学ぶこと

高専では高学年になると研究室に配属され、より専門

的な知識を学ぶことができます。大切なのは、新たな技術開発に取り組む「発想法」や「着眼点の置き方」、開発研究を進めるにあたっての「技術調査（過去研究文献の調査）とプランニング」、「具体的な手法の決定（実験プロトコルの組み立て）」や「得られた結果の理解やまとめる力（学会発表や論文執筆）」など、仕事の考え方や進め方を1つでも多く身に付けることです。なぜなら、それこそが今後共通して使える本当の“知識”であり、社会に出た時に生きる応用性だからです。そのためには、早い時期に自らに自主性を課すことが重要です。

### ■環境が自分を変えてくれるのではなく、自分自身が変わり環境を変えていく

現在、京都の本社から岐阜の大学へ、社会人ドクターとして博士号取得を目指し、出向研究させていただくというチャンスにめぐり会えました。ここで、私は幸運にも人生の恩師と呼べる先生に出会うことができました。その方から教えていただいた教訓は、「世間や会社に対して他責の念を持つお前が悪い。お前が本気で問題を打破する努力をしているとは思えない。例え頭を床に擦りつけて懇願してでも、周りを変える覚悟を持って挑めよ！」です。いつか環境が変わるだろう、環境が自分を変えてくれるだろうと受け身の姿勢でいれば、いつになってもどこへ行っても、自分も環境も変わりません。しかし自分自身がまず意識を変えて、考え方を改めて、何とか問題を打破する手段を考えるようにします。自分の持ち得る力を全て駆使する覚悟で正面から挑むと、不思議と問題の中で何をすべきかに気づくようになってきました。この覚悟を決めて物事に取り組めるかどうかは、仕事の成功や失敗に大きく影響すると信じています。

### ■鳥の目 虫の目 魚の目

私が会社で教えていただいた言葉です。「鳥のように高い点から広く全体を見渡す視野を持ち、虫のように細部にまで狭く深く物事を見つめ、魚のように物事の流れや先の展望を読み取る」。即ち、鳥の目を持って自己分析を行い、自分の現状を把握すること。虫の目をもって、まさに今この瞬間をいかに有意義に過ごすかを考えること。そして、大切なことは魚の目であり、今後自分自身がどう成りたいのか、先々を考え見据えて先手先手の行動に出ることです。もし明確な夢や希望があるのであれば、そのために今から何をしていく必要があるか、一度じっ

くり考えてみてください。『今は学生だから』と思って安心していても、あっという間に就職活動が迫り、気がつけば社会人になっています。

……学生当時の自分自身がそうであったように、一卒業生の言葉がどれほどの的を射ているのかなど、今は分かるはずもありません。しかし、同じように高専で学び、卒業し、社会人を経験している私の様な人間のメッセージが少しでも参考になれば、これほど嬉しいことはありません。どうか明るく有意義な学生生活を送ってください！皆様とどこかでお仕事を通じてお会いできる日を楽しみにしております！

## 留 学 生 か ら



### 日本での私の新しい生活

機械工学科3年  
ムグンタン・マライ・ラジャン

初めまして、機械工学3年のムグンタンです。マレーシアから来ました。マレーシアの漢字名は「馬來西亜」です。マレーシアの人口は約2800万人で、首都はクアラルンプールです。マレーシアには火山がなく、地震もなく、平和な国です。マレーシアは多民族の国です。三大民族はマレー系、中国系とインド系です。民族によってそれぞれお祝いがあります。ですからマレーシアは公休日がいっぱいあります。食べ物も民族によっていろいろな料理があり、マレーシアは日本と比べると、物価も安くなっています。

私は高校生の時に大きい試験で、いい成績をとって、マレーシア政府の奨学金を申し込みました。面接をして1カ月後、政府から電話があって、私が奨学金を受けることになりました。日本へ行く前、マレーシアの日本語学校で2年間ぐらい日本語を勉強しました。最初は大変難しかったですが、あちらの先生方のおかげで、私は今

やっとこのような文章が書けるようになりました。

私は4月2日に、マス航空で日本に到着しました。来た時、東京の温度は1度でした。すごくびっくりしました。私にとってあんな温度で過ごすのは無理だと思いました。なぜかという、マレーシアは1年中蒸し暑く、気温は30度ぐらいだからです。しかし、時間が経つにつれて、だんだん慣れてきました。でも私にとって、一番大変だったのは食べものです。日本料理とマレーシア料理の味は全然違います。最初の2週間は大変で、マレーシアへ帰りたい気持ちがどんどん強くなってしまいました。でも、それを我慢して、少しずつ食べられるようになってきました。

今入っている機械工学科の勉強は大変です。分からない言葉がたくさんあり、先生が何をおっしゃっているのかあまりわかりません。でも、私のチューターは優しい人です。分からないことがあったら、すぐ彼に聞きます。クラスの友達もそうです。みんな優しいです。こんなクラスに入れて良かったと思います。彼らはすごく元気で、一緒に勉強するのは楽しいです。

最後に、私にとって、日本に留学できたことは人生にとってもっとも良いことです。だから、いろいろな経験を作りたいし、たくさんの友達も作りたいです。よろしくお願いいたします。



### やっと日本にいます

電気電子工学科3年  
ムハマド・シャフィック・ビン・ザカリヤ

はじめまして、私はムハマド・シャフィックと申します。マレーシアから来ました。今、沼津高専で電気電子工学を勉強しています。私が日本に着いたのは2012年4月2日で、私を含めて、58人のマレーシアの学生と一緒に来

ました。私たちは、高専で勉強するための学生です。大学へ行くための学生もいますが、私たちよりもっと多く、150人ぐらいいました。日本に来る前に、マレーシアの大学で2年間日本語を勉強しました。高校を卒業し、4ヶ月ぐらい休んで、日本で勉強するための授業を受けました。その時、私はいつも「なぜ2年間もかかるの？今すぐ日本に行きたいよ。」と思っていました。それは、小さいころから日本に行きたかったためです。マレーシアでは、多くの人が日本のことを良く知っています。きれいな桜があるし、様々な面白い祭りもあります。それだけでなく、日本の技術も世界中で一番と思っています。そ

のため、日本で勉強することが夢になりました。「今、夢の中じゃない！日本にいるよ！」と思っています。本当にうれしくて、私に日本で勉強するチャンスくれたマレーシアの政府に感謝しています。ありがとうマレーシア。

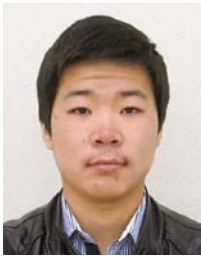
日本での生活は、やはりおもしろいです。色々な新しいことがありました。例えば、桜です。日本に来る時は、春の時期でした。2週間ぐらい日本にいて、桜の花が咲きました。きれいで、沢山の写真を撮りました。今、冬を待っています。マレーシアは季節がないため、毎日30度ぐらいです。雪だるまを作りたいくて、スキーもやりたいです。

初めて沼津高専での授業を受けたとき、緊張しました。クラスで留学生は私一人だけで、他は日本人です。私はもう20歳になりましたが、他の学生は17歳または18歳で

す。ですが、みんな優しい学生です。いつも私を助けてくれます。問題もあまりありませんでした。賑やかなクラスで、時々うるさくなることもあります。でもそんなに喧しくないと思います。皆と友達になりたいです。

日本で勉強して高専を卒業したあと、マレーシアに帰り、立派な人になって、マレーシアをすばらしい国にしたいです。今から一生懸命勉強をして、沢山の経験をつくりたいです。出来れば、日本のような国になってほしいと思います。

まだ色々書きたいことがあります、これで終わりにします。皆さん、楽しい海外旅行をしたかったら、ぜひマレーシアに来てください、様々なすばらしいことがあります。今、私は、沼津高専でがんばっています。もっといい学生になりたいです。よろしくおねがいします。



## 高専での 留学生活スタート

制御情報工学科3年  
エンバータル・エンジル

皆さんこんにちは。私はエンジと申します。モンゴルから来ました。今、制御情報工学科3年生で勉強しています。モンゴルは発展途上国です。特に情報技術はまだ発展していません。ですから私は日本で自分の国の情報技術を発展させるだけの知識を学びたいと思って制御情報工学科の勉強をしています。

私は中学校まで海外への留学のことを全然考えていませんでした。しかし中学校卒業後、転校し、モンゴルの首都にあるSANTという私立高等学校に入りました。その高校は色々な国へ留学するための試験勉強を更にやっています。例えば、TOEFLやIELTSなどです。そこで私は文部科学省奨学について教えてもらい、日本へ留学することを目的として勉強するようになりました。なぜ日本を選んだのかというと、私にとって情報技術に対して日本は世界で1番だと思うからです。そして私は文部科学省の試験に合格し、日本に留学できるようになりました。しかし、去年の3月に日本で大地震が起きて、原発の事故が起き、家族は私が日本に行くことを心配していました。ですが、私は2年間の努力を無駄にしたくなくて、

どんな状況でもやるべきだと思って日本に行くことを決心しました。

私は4月15日に日本に到着しました。成田空港に着いた瞬間、家族や国のことを思い出して帰国したくなってきました。しかし、私は目的のことをもう一回思いだし、これから頑張ろうと思いました。

日本に来て、東京にある東京教育センターという日本語学校ではじめて日本語の勉強をしました。日本に来たばかりのころは、日本のことがよく分からないし、日本語も分からなかったので大変でした。しかし、日本語学校の先生方が授業だけでなく、日本人の習慣や考え方を親切に教えてくれました。そして1、2ヶ月後友達もたくさんできて、日本にも少し慣れて楽しくなってきました。そこで私は東京で楽しい1年間を過ごしました。

沼津に来たのは今年の3月末です。4月に授業が始まって、初めて日本人のクラスに入りました。最初の授業のときに担任の先生が私のことを紹介しましたが、クラスメートのみんなが私のことを見ていました。そのとき本当に恥ずかしかったです。私はクラスメートのみんなと色々話したいのですが、私の日本語力はまだ低くてあまり話できません。これから積極的に話しかけてたくさん友達を作りたいと思います。

最後に、留学生活は簡単なことではありませんが、この大変さを逆に楽しんで、目的のために頑張りたいと思います。よろしくおねがいします。



## 寮生会活動について

### 沼津高専学生寮と成長の軌跡

電気電子工学科5年 寮長  
川口直輝

沼津高専学生寮寮生会長の電気電子工学科5年川口と申します。この度は、寮生の代表としまして本校の学生寮について紹介させていただきます。

全国に広がる数多くの高専の寮の中で、沼津高専学生寮はよく日本一の寮と言われています。その主な理由は、学生による学生のための自治がしっかりと行われていることだと私は考えています。

元来、沼津高専学生寮というものは本校の教育理念の「人柄の良い優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。」の達成の補助を目的としています。その人格教育を率先して行っているのは寮生であり、主体となるのは「寮生会」という組織です。

現在、学生寮には約570名の寮生が生活しています。その全員が寮生会組織に所属し、運営に携わっています。寮生活を送る上で重要な規則といった基礎的な内容から、

社会に出てから役に立つマナーやモラルの指導など、多岐に渡って指導を行っています。寮生がお互いに気を配り合い、高め合う生活を送ることで、他の高校や高専で味わうことの出来ない貴重な経験を得ています。また、寮ではより充実した生活を送るために様々な試みが行われています。学習面では、高専で習う内容が一般的な塾で対応しにくい、という点をカバーするために、寮生相互による勉強の指導を行っています。一方、生活面においては、季節ごとに様々な行事（5月には寮祭、7月には夏祭り、12月には冬祭りなど）を行い、寮生だけでなく地域の方との交流も図っています。これらの企画は、交流を促進するだけでなく、充実した寮生活を送る礎にもなります。

ここまで、寮生活や自治について述べさせていただきましたが、もちろんこのような活動は保護者の方の支えがあってこそのもので、寮は保護者から一時的に、子供を預かるというスタンスですので、様々な点で保護者の方にはご協力とご理解を頂いております。至らぬ点多々ある寮生会かと思いますが、保護者の皆様にはどうか変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



## 東北ボランティアツアー

学生会副会長兼広報局長 物質工学科3年  
遠藤 みのり

平成23年3月11日に東日本大震災がありました。多くの人は被災地の現状を知らないと思います。私たち学生は被災地の現状を知り、より多くの人に伝えたいと思い宮城県七ヶ浜にてボランティア活動をしました。また、被災地にある高専と交流をしました。

期日：平成24年3月13日～3月15日 泊3日

参加者：47名

ボランティア先：宮城県七ヶ浜ボランティアセンター

交流先：一関工業高等専門学校

### 〈ボランティア活動〉

2日目の朝早くに出発し、ボランティアセンターで受付をしました。ボランティア内容は、重機では撤去できない小さいがれきを手作業で撤去するというものでした。土を掘ってふるいにかけてがれきを撤去し、また土を戻す。という単純な作業でしたが、根気が必要でした。参加者は額に汗をかきながら一生懸命に活動していました。

ですが、ボランティア活動時間は約3時間という短い時間でした。47名が活動してもできたことは少なかったです。ボランティアは小さなことでも継続して行うことが大切だと思いました。



### 〈交流〉

3日目に岩手県にある一関高専と交流をしました。一関高専の学生から震災当時の状況や、震災に備えておくべきことなどの話を聞きました。参加者は真剣に話を聞いていました。

話の中で重要だと思ったのが「安全確認」でした。震災当時は、お互いのことを気にかけてメールのやり取りなどをしていたそうです。学校からの連絡は途絶えていたけれど、すぐに安全確認ができたそうです。どんなときも家族だけでなく、友達や身近にいる人を気にかけるという意識が大切だと思いました。

また、座談会も行いました。グループに分かれて「自分たちが震災のために出来ることはなにか」を話し合いました。どのグループもよい話し合いをしていました。

### 〈感想〉

企画者 学生会会長

電子制御工学科4年 戸本佳佑

私は参加者に何かを感じて欲しいと思い今回のツアーを実施しました。もちろん現地の様子や、被災者の思いもそうですが、僕が一番伝えたいことは動けば変わるということ。大事なことは、これがしたい！と口に出して行動すること。本気で、楽しんで。

このツアーだって最初はそんなこと出来たらいいね！という夢物語でした。どこに行って、何をしよう、それはいくらかかるの？ほんとに人集まるかな？全くのゼロからのスタート。どこまで出来るかわからないけどとにかく動き出しました。ほんとに必死になって動きました。それでも動いているときはほんとに楽しかったし、だからこそ本気になれたのだと思います。気づいたら人もたくさん集まっていました。身震いするほど嬉しかったです。

今回被災地の為に出来たことはほとんどありません。僕らが学ばせてもらったことだらけでした。それでもこれからまた僕らにできることはまだまだあります。それはもう忘れないことじゃない、一人一人が考えて動くこと。それが次のステップです。

# 私の高専時代



## 私の高専時代

制御情報工学科 13期卒  
長谷賢治

「現在」を既定するのは「未来」。近頃、そのように思う。私の高専時代を回顧する。それは、35年の歳月を経て(所謂、「未来」から)、その時代(その当時の「現在」)の意味づけを行うこと。ここでは、教官、寮、友、そして行事という4つの位相で、私の高専時代を振り返ってみたい。そして、その時代の「高専教育のカタチ」を抽出してみたい。

1. 教官 強烈な個性をもった教官軍団。一言でまとめればこうである。日本男児を地で行く国語の市川先生(米国化することに嫌悪感を。先見性があった)、ONIGOMEと異名があった独逸語の堀米先生(第2年次から独逸語。予習せずに授業出席などありえなかった)、ダイナミックなチョーク裁き(書くときにシューシューと口から音が漏れる)の統計学の岡田先生、ダンディーでニヒルな生成文法研究の野中先生、ネ、ネを連発しながら難解な原子核物理を自己陶酔的に語る箕輪先生、話すときは常に顔を上向け、「エー、……」と語り出す独逸哲学の大沼先生(車も独逸車VolkswagenのBeetleだった)、蝶ネクタイ姿がお洒落だった冶金学の藤野先生、松平家一族のDNAが組み込まれ処世術を教授しはじめたらピカイチの制御工学の松平先生などなど、列挙しはじめたらすべての先生の名を挙げられる。35年の歳月を経た今も。そのくらい凄い教官軍団。だから以下の図式が成り立った。

講義への出席=舞台を見る

すなわち、教官は、役者であり、個々に美学をもち、その信念に基づいて学生という観衆の前で役を演じきる。また、技官集団もその道のプロ集団だった。強烈な職人気質的な雰囲気や漂わせていた。それが、昔の高専にはあった。

2. 寮 封建的社会的縮図でかつサバイバルスキルを手に入れる「場(Ba)」。先輩には絶対「NO」と言えない世界。先輩の使い走りややりながら、所謂、大人へと脱皮。輪廻。一年後、自分が後輩を使う。あれほど、自

分はそうならないと誓ったのに。毎年、それが繰り返される。しかし、それも悪くない。それが集団に組み込まれた大人へと脱皮を促すDNAなのだから。遊・耽、墮落、そして再起。誰もが一度は味わう試練。再起できない者も居た。退寮していった。当時は、退寮即退学だった。すなわち、国立の技術者養成機関に、精神的軟弱さはそぐわないと判断された。初めて入った部屋は4人部屋(口の悪いやつはこれを蛸部屋と呼んでいた)。4人集まればカードゲーム。毎夜、遊びに耽る。当然、墮落。試験。墮落した自分に気づく。「このままでは留年」と。そしてどん底から再起する。そんな落とし穴に一度は嵌り、自力で這い上がる。そんな落とし穴だらけ。精神的サバイバルの場の提供。そして、自力でサバイバルスキルを手に入れる場。それが寮だったような気がする。

3. 友 強烈な個性集団。元服年齢で親元脱離。覚悟ができている。知的背伸びをしあう集団。カントの「純粹理性批判」、西田幾多郎の「善の研究」をもっていないと恰好がつかない。知的気取り。自分の周囲でバイブルとされた書。それは河合栄二郎の「学生に与う」だった。強烈な個性に触れ、己れの個性が読み取れる。

4. 行事 手抜き、いや、巧妙に仕組まれていた。最初の洗礼。それは愛鷹山の水神社。そこで与えられたミッションは「自力で学校まで戻れ!(地図とコンパスは持参)」距離は直線で10km。迷路。読図できなければ生還不能。遠足。北鎌倉駅まで国鉄で。着いた瞬間、解散。あとは自由。自由は逆に人を不安にさせる。どうすればこの鎌倉を堪能できるのかと。すべてが過保護な現代とは、完全に逆の世界だった。

以上、私の高専時代を振り返ってみた。そこから見えてきたその時代の「高専教育のカタチ」を4ヶ条にまとめる。

1. 教官=役者
2. 寮=精神的サバイバルツール獲得の場
3. 友=知的背伸びをしあう集団
4. 行事=リスクだらけ。だからこそ成長する

今と時代が違うかもしれない。しかし、教育手法はそう変わるわけではない。これを機に過保護な教育になりがちな現代の高専教育をもう一度、見直してみたいと思う。

## 教育後援会から

### 会長就任のご挨拶

教育後援会会長（E5）西岡 珠 美

今年度教育後援会会長に就任いたしました西岡でございます。保護者の皆様のご代表として重責を感じておりますが、この大役を誠心誠意努めさせていただき所存で御座いますので、これから一年間ご指導ご協力の程、宜しくをお願いいたします。

教育後援会の活動内容といたしましては、学校教育の発展に関する助成、学生の課外活動に関する助成、学生の福利厚生に関する助成等を行っております。

これは、我々保護者が高専教育の理念・目的・教育方針等々に賛同した上で学生達の育成に対し、学校と保護者の双方が協力して学生を学習面、課外活動等幅広くバックアップ、サポートすることを目的としております。

以上のことを踏まえ、予定されている事業を柳下校長先生以下教職員の方々と話し合い、協議をしながら、学生にとって最善の方策を考えていきたいと思っております。

早いもので、子供がお世話になって5年目を迎えますが、入学当初は15年間手塩にかけた子供を手元から離し全く別の環境で生活を送ることへの不安と心配で心が押し潰されそうになった事は一度や二度ではありません。15歳の子供に、自分の将来を左右する様な事を決定させてよかったのかと自問自答を繰り返す日々を過ごした時期もありました。又、15歳という若年で親元を離れ新し

い生活を送る子供達もそれ以上の不安と心配があったのではないかと推察いたします。

しかし、中学卒業後の入学生に5年一貫の教育を通して幅広い場所で活躍する実践的、創造的技術者を育成している高専教育は文部科学省では高等教育機関に位置づけられ、他の学校教育では得られない高度な専門知識を習得する事ができ、学生が技術者として必要な技術力を基礎から習得できる学校です。そして、実験や研究を通してレポート提出やプレゼンテーションを行い日々、技術力や表現力を磨いております。

又、毎年企業より共同研究の委託を受け成果を上げている事は、柳下校長先生を始めとする教職員の方々、全ての学校関係者の方々のご指導の賜物と言っても過言ではありません。

子供達はこのような好環境の下、最低でも一年間の寮生活という共同生活を通して協調性や誰かを思いやる心を身に付け、自分の目標や夢に向かって努力を惜しまない強い精神力と意志を身に付けております。

私達保護者も、心配や不安は尽きませんが、子供達の素晴らしい成長を信じ温かく見守っていく事が大切だと痛感いたしました。

今年は沼津工業高等専門学校創立50年の記念の年となります。この記念すべき素晴らしい年に後援会会長として努めさせて頂ける事に感謝し、これからも卒業を迎える子供たちの母校であるこの沼津工業高等専門学校の更なる発展と高い志を持った優秀な学生が一人でも多く入学して下さる事を願い、私の挨拶と代えさせて頂きたいと思っております。

### 桃李成蹊

1-1 保護者 松 村 里 恵

満開の桜の花が祝ってくれているかのように、天気にも恵まれた入学式でした。受付や寮への荷物の搬入時も、礼儀正しい上級生の姿にとっても感心しました。同時に、部屋の片づけはしないし、目覚まし時計が鳴ろうが私が叫ぼうが、なかなか起きてこない…これで、寮生活は大丈夫だろうか。息子のことが心配になりました。テレホンカード数枚、十円硬貨は千円分。公衆電話で困ることがないように準備して持たせましたが、5月の連休までに電話が鳴ったのは3回ほどで、しかも知り合いの先輩に促してもらい、漸く電話が来ました。学校も寮も楽しい、友達もでき先輩にも好くしてもらっていると、親の心配とは裏腹に、元気な声が聞こえました。部活にも入り普段は忙しいとのこと。声が聞けて嬉しいのに、息子

が楽しいと言うことは悪さをしているのではないかと思います。「勉強だけはしっかりやってよ!」と、つつい定番のセリフが出てしまいました。4月の終わりの外泊の許可が出るのを楽しみにしていた頃、先輩の携帯電話を借りて「熱が出たから迎えに来て」と連絡がありました。小学校低学年以来、何年かぶりに学校を休むことになりました。寒暖の差も激しかったし、多忙で無理が祟ったのでしょうか。今までとは違い、単位にも関わってくる事なので、学校を休むこと事態が不安でしたが、自身で健康を管理するのも勉強のうちだと実感しました。熱が下がると学校や寮の様子を聞くことができました。先生、友達、先輩の名前がたくさん出てきました。友達はもちろんのこと、先輩の部屋にも行かせてもらい勉強を教えて頂くこともあるそうで、一人っ子の息子にとって寮は格好な場所のようです。そのようなわけで、体調が良くなると「俺は寮に帰るから。」と、あっさり言われてしまいました。規則も厳しく自由もきかない環境の中でも、楽しみを見つけ生き生きと生活していることに嬉

しく思い、皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。

「桃李成蹊」という言葉があります。桃や李は話すことは出来ないけれど、かぐわしい香りに自然に人が集まってきて小道が出来るということから、人柄の良い人や人徳のある人のもとには、自然に人が集まってきて道が出来るとのこと。これが沼津高専の理念と重なりました。

## 不器用に、強くなれ

1-2 保護者 茶田 敏明

中学を卒業する時に受け取った手紙である。「家を離れることは避けては通れない道」だという。潔い覚悟だと思う。「成長した姿を見せられるよう努力したい」という結びは、私の祈りでもある。

家庭では進路の相談をあまりしよとしなかった息子が、沼津高専への進学を明言したのは、中3の2学期も後半だった。鉄道の技術者になるには、沼津高専が最適だと判断したからである。

鉄道好きの始まりは、祖父が買い与えた電車のおもちゃだった。電車に乗れば、運転席をのぞきこもうと、ガラス窓に顔をくっつけていた。やがて、時刻表の読み方を覚え、親子日帰り旅の計画を立てるようになった。

小4の時、箱根の金時山に父子で登った。山頂から眺めた地形に、私は感動した。「等高線が立体的に見える」と話した。息子が地形図にも興味を抱くようになったのは、この時だと思う。

中学では、運動部に入ることを勧めた。テニスするのは初めてだった。ブランド物のラケットを持つ同級生をうらやみ、なんで自分のは安物なんだ、と母親をなじったことが思い出される。

## 自立への第一歩

1-3 保護者 荻野 京子

「よし、出掛けるか。」入学・入寮式の日、トランク一杯の荷物と共に私は我が家を後にしました。高専までの道のりは、まるで息子の新生活を祝うかのように桜の花がきれいに咲きほころんでいました。

息子が「高専へ進学したい。」と強く希望するようになったのは、中学でのキャリア教育の一貫で自分自身というものを客観的に捉え、本気で自分の将来や人生について考えた時でした。

沼津高専は5年一貫制の教育であり、専門的な知識と実践的な技術力が学べ、しかも寮生活を通して人間形成やコミュニケーション能力を養うことができる素晴らしい学校です。また、今年の新1年生から混合学級制とな

人徳を慕うのは、誰しもが望むことです。どんなに世の中が変わっても、絶えることのない桃李の下の小道を、親元から離れて、息子は歩き始めたのでしょうか。

その小道で、たくさんのセレンディピティが体験できますように…。何事もあきらめない、前向きな技術者になりますように…。

レギュラーで活躍する機会がなかった部活は、少なからずストレスだったと思う。しかし、上級生になっても玉拾いをいとわず、休日に試合がある時は、集合場所に一番乗りを心がけていた。

自習時間の生み出し方がうまくなったのは、部活のおかげかもしれない。疲れた体で夜遅くまで勉強しても、頭が思うように働かない。だから、始まりを早めにして、テスト前日は早く寝ることにした。

中3の6月からは、新聞を読み始めた。一面トップの記事はもとより、経済面までサイドラインを引いていた。私が新聞を開くと、「天声人語」が切り取られていることもしばしばだった。

「親のルール」があって、その中で「子のプラン」が動き出す。両者は、なかなか折り合わない。しかし、子どもが大人になるというのは、「親のルール」から「子のプラン」が出ていくということである。

親はそれをどこかの時点で承認し、支援していくしかない。親との「枝分かれ」の時期である。「親のルール」からの「枝分かれ」と言っている。その意味で、沼津高専の寮生活は、たいへんありがたい。

授業はハイレベルで、ついていだけで精一杯だと、電話で話していた。それでいい。まずは「できない」ことを自覚してほしい。「頭が良い」ことよりも、むしろ「頭が強い」ことの方が重要だと思う。へこたれず、不器用に立ち向かい、底力を身につけてほしい。

り、学際教育も導入されました。15歳から20歳までの多感な時期に、多くの人と触れ合い、語り合うこと、広い視野を持つことは、さらに自分自身を磨きあげ、今後社会に出た時の大きな力と自信につながっていきます。まさに高専は、「工業分野の道へ進みたい」という息子のビジョンにぴったり合った学校でした。

正直、私も夫も、一人息子を15歳で自立させる事に少し戸惑いました。けれども、息子が今一番学びたいと思っている事が高専の中にあるならば、親として子供の気持ちを一番に考え、大切にしていあげようと思い、私達親も子離れする決心をしました。

あれから1カ月、ゴールデンウィークに帰省した息子はちょっぴり背が伸びて、遅くなっていました。そして、わずかな時間でしたが久しぶりに息子との会話を楽しむことができました。

新しい友人のこと、寮生活や部活動のこと、勉強のことなど、次から次へと色々な話を楽しそうに明るく笑

顔で話をする子供の姿に、大変だけれども充実した毎日を送っていることがうかがえました。それにはきっと、早く寮生活や高専生活に馴染んでもらおうと、階長さんをはじめとする寮の先輩方や先生方がいろいろな面でご配慮して下さっているおかげだと感謝の思いでいっぱいです。

5年間という長い教育期間の間には、いろいろな困難や壁にぶつかることもあるかと思います。けれども、入学時に「好きな事ならどんなに大変なことがあっても頑張れるよ。」という息子の言葉を信じ、将来、立派な技術者になれるよう心から応援しています。

## 事務部から

### 平成24年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、アメリカのオープンハウスを参考に、中学生その他の参加者に、沼津高専を自分の目で見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学の意味を固めていただくことを目的としました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食事体験、

学生会企画及びクラブ紹介、進学相談、学内施設紹介などです。保護者及び中学校の先生方に好評を得ております進学説明会は、午前と午後の2回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の生徒が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われま。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩・又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いいたします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月25日(水)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

## 1日体験入学

### 記

1. 日 時 **平成24年8月11日(土) 9:00～15:00**
2. 場 所 **沼津工業高等専門学校全域**
3. 実 施 内 容
 

(1) 進学説明会	(2) 進学相談コーナー
(3) 各学科・専攻科紹介	(4) 学内施設紹介
(5) 学生会企画及びクラブ紹介	(6) 学生寮食事体験
(7) その他	
4. 1日体験入学ホームページアドレス  
[http://www.numazu-ct.ac.jp/nct\\_hp\\_new/opencampus/lecture.html](http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/opencampus/lecture.html)

## 平成24年度(8月~3月)行事予定表

## 平成24年

- 8月** 2日(休) 前期末試験(8日まで)  
 9日(休) 始業式・大掃除・諸注意  
 10日(金) 夏季休業(9月18日まで)  
 11日(土) 一日体験入学  
 18日(土) 全国高専体育大会(28日まで)  
 21日(火) 編入学試験  
 24日(金) 専攻科前期終了  
 編入学試験合格発表  
 31日(金) 編入学予定学生説明会
- 9月** 2日(日) 進学説明会(小田原市)  
 9日(日) 進学説明会(浜松市)  
 15日(土) 寮生リーダー研修(17日まで)  
 19日(水) 授業再開  
 20日(木) 専攻科後期授業開始  
 専攻科ガイダンス(26日まで)  
 26日(水) 臨時休業(28日まで)  
 28日(金) 2年生ミニ研究発表会  
 専攻科臨時休業
- 10月** 1日(月) 後期授業開始  
 3日(水) 2年特別研修  
 7日(日) 中学生のための体験授業  
 10日(水) 4年工場見学(12日まで)  
 16日(火) 体育祭・学生総会  
 進学説明会(本校・教員対象)  
 28日(日) ロボコン東海北陸地区大会
- 11月** 1日(休) 創立50周年記念式典  
 2日(金) 高専祭準備  
 3日(土) 高専祭・ミニ体験授業(4日まで)  
 4日(日) 東海地区高専体育大会(ラグビー・フットボール)  
 5日(月) 高専祭片付け  
 12日(月) 授業参観・学科説明会(16日まで)  
 17日(土) 1・2年TOEIC Bridgeテスト  
 3・4年TOEIC IPテスト  
 18日(日) ロボコン全国大会  
 27日(火) 中間試験(12月3日まで)  
 30日(金) テクノフォーラム
- 12月** 6日(休) 専攻科入学説明会(予定)  
 8日(土) 4年工学系数学統一試験  
 12日(水) 3年課外教育特別講演  
 21日(金) 始業式・大掃除・諸注意  
 留学生交流会(22日まで)  
 25日(火) 冬季休業(1月4日まで)

## 平成25年

- 1月** 4日(金) 全国高専体育大会(ラグビー・フットボール)(9日まで)  
 7日(月) 授業再開  
 10日(木) 3年到達度試験(数学・物理)  
 12日(土) 専攻科研究発表会  
 15日(火) 専攻科研究・学習発表会(午後)  
 16日(水) 3年インターンシップ説明会  
 21日(月) 専攻科後期試験(2月1日まで)  
 27日(日) 推薦入試  
 28日(月) 3年合宿研修(30日まで)
- 2月** 7日(休) 専攻科後期終了  
 学年末試験(14日まで)  
 22日(金) 5年卒業研究(27日まで)  
 終業式・大掃除  
 24日(日) 学力入試  
 25日(月) 臨時休業(3月18日まで)  
 28日(木) 寮生リーダー研修(3月2日まで)  
 5年卒業研究発表(3月1日まで)
- 3月** 1日(金) 入学者選抜合格発表  
 専攻科臨時休業(18日まで)  
 6日(水) 入学説明会(予定)  
 7日(木) 5年卒業判定会議  
 14日(木) 1~4年進級判定会議  
 16日(土) 卒業式・修了式  
 19日(火) 開校記念日振替休業  
 21日(木) 学年末休業(29日まで)

